

令和3年度前期 授業改善計画(基盤教育群)

科目名	授業改善計画
宮城大学の知の体系	<p>アンケート結果として、「宮城大学についてより深く知り学ぶ意義がわかる」、「宮城大学での学びの素晴らしさを知り、改めて、宮城大学に入学できて本当に良かったと感じました」、「自分の希望する学群および学類のみならず、他の学群・学類での学びに関しても知ることができた」、「自分の興味のない分野の学問についてよく知れたし、面白かった」、「学類選択を迷っていたので、それぞれの学類について知ることができた」、「就職など先のことも学べてよかった」、「宮城大学での学習やその学習を社会にどう生かせるか、他学群ではどんな学びができるのかなどを知ることができた」など評価された点は良かったと思います。</p> <p>その一方で、「専門用語が難しすぎる」、「ゴールが不明」、「やる意味が最後まで理解できなかった。他学群の授業内容を聞いても意味がないと感じた」など講義の目的が十分に理解されていない点は、初回講義での説明不足を感じた次第です。</p> <p>また、別の意見として、「1年で他学群の活動内容を学んで終わりじゃなくて一緒に活動できる機会が欲しい」など全学的な交流の場を求める声も聞けたことについては、今後対応していく必要があると思います。次年度からは、新しいカリキュラムでの実施となりますが、宮城大学の各学群で学ぶ意義については、さらに理解を深められるよう改善していきたいと考えております。</p>
地域フィールドワーク	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【自由記載:良かった点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地に行って、学んだことの確認や住民の方にしかわからない点を学ぶことができた点。 ・グループワークなど、他者と交流しながら課題に取り組む機会が多かった点。 ・オフラインでしか知り得ない情報を知ることができる点。普段の生活では会うことのできない人に会える点。 ・受動的に学ぶだけでなく、自分で課題を見つけて答えを探していくという作業が新鮮で、大学生の学びというものを体感できたという点が良かった。 <p>【自由記載:改善したほうがよい点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の目的がもっと外的、社会的であったほうが良いと思った。 ・話し合いなどグループワークをもう少しやりたかった <p>→「地域を知ることができた」「実践的な学びが得られた」という意見が多数あった。他者との協働の学びを通じて「地域の課題や魅力への気づき・関心」の到達目標を達成できたと考える。来年度以降も地域との関わりや深い学びを得られるようプログラムのブラッシュアップに取り組んでいきたい。</p> <p>また、初年次の科目のため、到達目標や学習内容は個人による調査を中心とした基礎的な内容を主体に講義を設計している。</p> <p>来年度は、事前・事後学習を充実化しグループワークがさらに活発化する等の工夫を行いたい。また、発展的な科目としてコミュニティ・プランナー(CP)科目を2年次以降に開講しており、地域とより密接に関わることや、グループワークでの地域課題の解決に資するプロジェクトの検討・実践活動への関心や意欲を持つ学生はCP科目群の履修を推奨する。</p>
スタートアップ・セミナー	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のコメント欄には「楽しかった」という単語が散見されたが、具体的に何がどのように楽しかったのか不明であり、懸念材料となった。授業外学習時間の短さと「楽しかった」というコメントの多さから、果たして「大学で新しい知識を修得できたから楽しかった」、「大学生として必要な技能(レポートの書き方、発表の仕方)を学べて楽しかった」、或いは「学生同士のディスカッションから新たな論点が見いだせたことが楽しかった」ということではないように思える。 <p>今後更なる精査と検証が必要であり、大学初年次教育にもう少し厚みを持たせる必要性もでてくるかもしれない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の中、ディスカッションの方法も先生方と学生の協力で、実践することができたことは大変有意義であった。
データサイエンス入門	<p>講義の説明を工夫し、よりわかり易い講義形式に工夫したい。</p> <p>なるべくシラバス通りの進みになるように進捗管理する。そして、講義だけでなく自助努力を促していく。</p>
English Reading Skills I	<ol style="list-style-type: none"> 1 クラス間によって課題内容、課題量ともに若干の差があった。→提出課題の内容と量については、クラス間に差が出ないよう情報を共有しなるべく統一したい。 2 課題や予習の指示は口頭だけではなく文書で行ってほしい。→課題に関しては板書やteamsなどを用いて提示する。

令和3年度前期 授業改善計画(基盤教育群)

科目名	授業改善計画
English Self-Expression I	<ul style="list-style-type: none"> ・各担当教員の授業の内容と進め方を統一する必要がありますので、再び担当教員が集まり、確認したいと思います。 ・授業マナーについて、履修生全員が授業に平等参加できる環境を作る。 ・何人かがfluencyに向けて、特に講義中に積極的になると、他の学生にモメンタムを与えて良いスパイラルをもたらすと考える。文法などをあまり気にしなくても良いから多くを語る、間違いは恥ずかしくないということを刷り込んでいきたい。
English for Academic Purposes I	<p>良かった点(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①Zoomを用いて問題の解答をしたので解答を保存してテスト前の復習に役立った。オンラインと対面のハイブリッド式でホワイトボードを使った授業が分かりやすいと感じた。⇒ハイブリッド式での授業を、今後もうまく活用したいと思います。 ②予習段階で分からなかったところが解決するような内容だった。授業の進め方が分かりやすくて良かった⇒今後もよりわかりやすい授業を進めていきたいと思います。 <p>改善してほしい点(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ①課題が少し多いと感じた⇒授業時間外学習時間の確保のために、課題はその分多くなります。頑張ってください。 ②テストの時の英文の文字が小さいと感じた。⇒英文の文字に関して、大きくできるようにしたいと思います。
English Self-Expression III	<p>これは、必修のSelf-Expressionコースシリーズの最後のコースです。学生たちは、実際のコミュニケーションの状況で英語を話すスキルを練習できることを楽しんでいました。英語のプレゼンテーションをするために聴衆の前で話すことへの恐怖を克服する必要がある学生もいましたが、ほとんどの学生はコースを受講することで英語を上手に話せるようになったと感じました。</p>
Practical English	<p>音楽と海外ドラマに興味が集まった。それらの教材を使って更に効率的に必要な知識・技量を得ることができる講義展開を工夫したいと思っている。コミュニケーションツールとしての英語力は正確さではなく、多発信を通しての意見の公約数的伝達である。すなわち、文法に間違いがあっても良い。多くを話しその中から意味をすくい取ってもらう。人前で英語を間違えることは恥ずかしいことではない。これらの前提をよく知ってもらうよう工夫をしたいと思う。このマインドセットのもとで講義で学んだ学習法を実際にクラス外でも繰り返し実行するよう指導していきたいと思う。</p>
中国語 I	<ul style="list-style-type: none"> ・授業外の学習時間を増やす工夫もしていきたいです。 ・成績評価方法については今後検討し見直します。 ・授業での問題演習の答えを口頭のみでなく、ホワイトボードにも書いていきます。 ・中国語の勉強に対する意欲をアップさせるため、「加点制」を含めていろいろ工夫をし続けていきたいと思います。 ・両クラスの学生人数のアンバランスを調整したいと思います。 ・使用テキスト以外から(中国語の社会、文化)も様々な学習をもっと取り入れ、学生にとってもっと満足度の高い授業にしていきたいと思います。
韓国語 I	<p>言葉はその国の文化を代表するものだと言っても過言ではないと言える。韓国語 I は韓国語の読み・書きができるようにすることを目標にしている、そのために授業時に多くの韓国の言葉を学んでいる。その言葉を正しく理解するためには関連する文化を理解しなければならない。そこで、授業時には言葉と言葉に関連する文化についての話がたくさん行われる。今回も言葉に関連して多くの韓国語の文化についての話や関連する映像などを用いて授業が行われた。それにより、韓国の文化についてより深く理解できたと思われる。しかし、本授業は、語学授業であるので、文化と言葉についてバランスよく行われて、偏らないように注意を払う。また、今回の問題点として取り上げられたものの中で、版書が見にくいことと単語が多いことがあった。版書については、できるだけ奇麗に、見えやすく書くように心がける。単語については、発音練習と会話に役に立つものを中心にして、単語の選別とその数などの調節を行い、学生たちがより効果的に韓国語を習得できるように改善していく。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(基盤教育群)

科目名	授業改善計画
ベトナム語 I	学習意欲、発話意欲を伸ばすために、主教材に頼らずにいろいろな視聴教材(動画、絵教材)を使って授業を行っています。今後とも、履修生が文字語彙の知識をしっかり身につけるように、復習時間、小テストの時間、学生の発話時間を増やしていきます。 文法についてはできるだけ履修生に予習してもらい、分からない項目は授業中の議論で明確にし、要点をまとめるなど、授業時間の使い方を工夫します。習ったものを運用できるという最終学習目標に到達するためには履修生の努力も求められます。 学生には習ったことを忘れないように事後に動画を見たり、CDを聴いたりして、しっかりと復習してもらいたいです。
Global Studies I	1) 学生同士の話す機会を増やします。 2) 授業内で予習内容の解説を徹底します。 3) 授業中にPadletの意見交換を続けます。
Intercultural Communication	課題の答え合わせなどところを減らします。「先生の授業はとても素晴らしかったのだが、左側の前列に座っている人が授業中にずっと話していたので煩わしかった。」 普段私のクラスはとてもよく管理されているので、このコメントを読んで驚きました。今後はさらに厳しくしていきたいと思います。
世界の歴史と文化(食産)	資料の説明がもう少し欲しかったという意見があった。各回の授業中の学生の反応を見ながら、改善していきたい。 教養を深めることができたという意見があり、今後も本授業が「覚える」歴史勉強から「歴史から考える」ことを理解できるよう取り組んでいきたいと考えた。
現代社会と哲学	今年度は、プラトンとアリストテレスを詳しく論じることになった。この授業が基盤教育科目(一般教養科目)であるとはいえ、資格試験の参考書に掲載されている程度の知識を教授したのでは、学生諸君に誤ったメタ・メッセージを伝えてしまうのではないかと、日々考えている。 つまり、薄口の知識の伝授だけで大学の授業が成立してしまう、との誤解が蔓延することを憂慮している。この授業に参加した学生諸君には、ひとりの哲学者、ひとつのテーマを取り上げるだけでも、教員側がどれだけ用意周到に準備しているか、また学生側もどの程度の文献に目を通さざるを得ないのかを実体験してもらおうことも、この授業の隠された狙いである。そして、願わくば、この体験を通して培われた感覚が、今後、学生諸君がレポートや卒業論文を書くにあたっての達成感や満足度の基準とならんことを。 なお、取り上げなかった論者に関しては、自習できるように、相当量の資料を配布してある。 当該資料は毎年100頁以上のペースで増加しているため、最新版を希望するむきは御連絡いただきたい。質問ととも歓迎する。
人と宗教	宗教は奥が深い。90分・15回の授業で完結するものではない。この点を踏まえて、受講者に課した課題の資料としての利活用と、その課題を遂行にするにあたっての要求水準の明示と、受講者が今後宗教もしくは宗教学に興味を持ったときの手引きとなることを考えて「多過ぎる」資料を配布している。 しかし、電子化されているので、邪魔にはならないはずである。また、当該資料が文献資料を中心に構成されているのは、微妙な差異に配視した知識の定着を図ることを第一義としているからである。レポートの論述問題において、読むに堪えない作文が皆無なのは、この教授法の効果であると考えている。もともと、学生諸君にとっては、それなりの集中力を要するであろうから、授業中に居眠りするような学生にとっては不向きな授業である、と受講予定者に言伝えてもらえれば幸いである。
現代社会の諸相(食産)	レポートの論述問題の出来が例年になく良かった。確かに、受講者は2年生以上の学生のみであったが、理科系の学生ということを考えると、それなりに頑張ってくれたものと感謝を表したい。これまでの経験から、レポートの論述問題の出来不出来が、もともと信頼に足る授業評価である、と考えているので、まずは一安心している。 微細な改善点に関しては、誠実に対応したいと考えている。
憲法(食産)	【良かった点についての自由記載】(抜粋) ・判例があって想像しやすかったです。 ⇒憲法の初学者にとって解りやすい授業を心がけたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。

令和3年度前期 授業改善計画(基盤教育群)

科目名	授業改善計画
社会と経済(食産)	<ul style="list-style-type: none"> ・「授業の要点・内容の整理」の評価が高かったので良かった。 ・「社会と経済」においては、単位を取るために学ぶのではなく、講義を通じて社会や経済に関心を持ったり、新聞等で報道されている中身を理解できるようになってほしい思っている。 ・来年度も、講義内容に関連する新聞記事を配布したり、現実の問題との関係性を説明したりと、教科書の枠を超えて、社会や経済の仕組みに興味・関心を持ってもらえるように工夫したい。 <p>以下学生からのコメントの抜粋です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経済は実生活に生かせるからおもしろかった。 ・動画を見たこと ・レジュメがとてもわかりやすく、高校時代は経済が得意ではなかったが、楽しく学べた。 ・経済新聞の内容を若干理解できた。 ・プリントやホワイトボード、映像や具体例などを多く含んだ講義で、わかりやすく興味深い授業だった点。 ・説明が分かりやすかった ・映像を見た講義が一回あってそれが想像しやすくなった。 ・勉強の内容に応じて、社会の出た現象を例にして、わかりやすい点です。 ・先生の例え話がわかりやすい。先生の話が面白い。 ・プリントに要所がまとめられていて、自習時に役立ちました。 ・章末問題の解説が授業内で行われているのがよかったです。 ・毎時間資料が配られたので復習しやすかった。 ・経済のことを詳細に教えてくださった。数学的要素も絡んできているので暗記のみの講義ではなく、趣があった。
数理科学	<p>授業評価アンケートの結果は下記の通り。</p> <p>【この授業に関して、良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数学が好きなので楽しかった。・面白かった・板書が見やすかったです。 ・先生が面白かったです ・一見難しそうな印象だったが、実用的なところもあって、身近な感覚で学ぶことができたのが良かった点だった。 →選択科目として科目に興味のある学生の意見として受け止める。内容的により高度なものを選んでも良い印象をもった。 <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一度聞き逃すとついていけない。 ・証明で意味がわからないところがたまにあったからもう少し丁寧に説明して欲しかった ・ノート書くことに追われて、話が入ってこない。 →講義のスピードについては例年指摘されている通り、早いと受け止める履修者への対応が必要と受け止める。 下記にも述べるが、まずテキストの作成・配布での手当てを行っていく <p>【その他、意見、感想、要望など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・癖があった・生徒に寄り添った授業でわかりやすかったです。 ・復習しても覚えづらいこともいくつかあって難しかったです。 ・テキストかプリントを配ってほしい。 →5カ年2キャンパスでの講義で科目内容が安定してきており、他の数学系科目「数学概論」と有機的な繋がりを意識してテキストを作成・配布することでアンケート結果で対応が必要な点へ対処していく。

令和3年度前期 授業改善計画(基盤教育群)

科目名	授業改善計画
生命科学	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。</p> <p>【良かった点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回いろいろな人のコメントが見れるのがよかった。 ・自分で振り返り、調べて文章にすることで理解が深まったし、知識がついた。 ・専門的な知識がなくても理解できるとも興味深い内容の講義だった。初めて知る事が多くとても面白かった。 ・外部講師の方を招いたり、いろいろな分野のお話を聞くことができて楽しかった点。 <p>【改善した方がよい点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料の公開日数が短すぎたときがあった点。 ・ディスカッションがディスカッションになっていないように感じた。コメントに返信がこないのも、もうちょっとディスカッションを活発化してほしいと感じた。 <p>【その他】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の講義コメントを考え、調べる時間が面白かった。 <p>(改善点)</p> <ul style="list-style-type: none"> →資料の公開は1週間ですが、2週間以上公開するようにします。 →双方向のディスカッションになるように、授業の中でディスカッション例を示して説明します。
環境科学入門(食産)	<p>全体的に、理解度も高く、学生評価の大部分において平均値よりも高かった。このため、基本的な教育方法はそのまま継続する。</p> <p>ただし、事前事後学習時間が少ないことから、課題数を増やしたい。</p> <p>また、レスポンスカードの記載スペース(5行分)が少なく、裏面まで書いている学生が多いことから、記載スペースを増やす。さらに、記載内容について5名分を翌週の講義の初めに披露したが、好評であったので続けたい。</p>
地球と宇宙(食産)	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【よかった点の自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テスト持ち込み可能だったのでよかった。 ・テストが3回に分かれてたため、1回の負担が少なくて良かったです。授業内容も興味深かったです。 ・宇宙の内容は未知が溢れていて面白かったし、地球の内容は身近でためになった ・ロマン溢れる授業だった。 ・アンケートやテストをformsで行うのがスムーズで良いと思った。 →小テストについては引き続き同様に形式で実施したいと思います。講義の内容については、引き続き、できるだけ興味関心がわく内容を取り入れていきたいと考えます。 Formsについても、今後も適宜講義に取り入れ、意見徴収をすることで双方向型の講義にしていきたいと思っています。 <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話すスピードが速すぎて頭が追い付かなかった。 ・資料が分かりづらい。説明が早い。 ・授業プリントに載ってないスライドで時々混乱することがあった。 ・文字が記載されている用紙と図が記載されている用紙を分けない方が見やすいのではないかと思います。 →話すスピードについては気をつけたいと思います。また、資料(レジュメ)については、できるだけ改善を図っていきたいと思っています。 <p>【その他、意見、感想、要望など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントの配布をしてほしかった →著作権の問題もあり、パワーポイントは基本的に配布しないことにしています。講義動画を残しているのも、それに基づいて勉強していただきたいと思っています。

令和3年度前期 授業改善計画(基盤教育群)

科目名	授業改善計画
数学概論	<p>授業評価アンケートの結果は下記の通り。</p> <p>【この授業に関して、良かった点】 ・数学の面白さを知れた点。・高校数学の延長線のような授業で楽しかった。 ・テキストが見やすい 授業内容のホワイトボードが掲載されてるのが便利 ・教員が論理だてて説明して下さった点。・生徒の質問などに時間を使っていた点。 ・新しい数学の考え方を得ることができた。・今までとは違う数学を知れた ・雑談があり、受けていて楽しかった。・板書が見やすかったです。 ・難しいけど一生懸命教えてくれたのでそれに応えようと思えた ・授業内でのワンポイントアドバイスや、板書に例題を書いたりしたので理解が進みました。 →教授内容、学生の状況とのバランスに対して、クラスの規模と科目特性の観点から十分な成果を得たと判断している。</p> <p>【改善したほうがよい点】 ・講義資料が少なかった点。・少し難しかった ・要領を得た授業をして欲しい。YouTubeに講義動画を載せるなどしているくらいなので、遠隔でもいい。 →対面講義でのみ教授可能な事項について、教材に改善については今後も継続して実施していく</p> <p>【その他、意見、感想、要望など】 ・正直将来どの場面で使うのかわからなかった・楽しかったです。・生徒に寄り添った授業でわかりやすかったです。 ・難しいと感じるところはたくさんあったが、分かったときの嬉しさも他の教科よりひとしおで、半年の授業を終えて強い達成感がある。 ・数学が苦手で大学の数学についていけないのか不安でしたが、わかりやすかったので思っていたよりはついていけました。 →好意的な意見が多く、成果を得ていると判断する。一方で、教授内容の具体的な利用方法についてのニーズについて対応していく余地があるコメントとして受け止める。</p>
物理概論	<p>身の回りの物理の焦点を当て、その原理などを解説したが、おおむね好評であった。 大講義室での開講で、また新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、一部で実演できなかった項目もあり、次年度以降は工夫を加えたい。 改善点として、取り扱う内容の改善を検討する。</p>
化学概論	<p>本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に対応して一部がオンライン開講となり、実質的に若干授業時間が短縮されたが、全体としては概ね計画通り授業展開を行うことができた。 基本的に対面で授業を実施し、手書きの板書が主な方法となった。手書きによる実施のため、字が読みにくいなどの不具合もあったが、展開スピードについては、適度に保たれたようであった。 わかりにくい内容については、繰り返し説明する、演習を通して定着を図るなどの工夫で対応した。 当該科目については、大学入学前の履修状況に学生間で差があるため、次年度は、基本的な部分を中心に、わかり易い内容で授業を展開する。さらに、授業の中でもグループ単位で演習問題に取り組む時間を設けるなど、参加学生が自らの意志によって、学習に取り組み仕組みを導入する。さらに、事前・事後学習を促すため、ミニテストの導入を計画している。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(基盤教育群)

科目名	授業改善計画
健康科学	<p>心理学・食育・医学と立場の違う3名の教員によるオムニバス形式の授業なので、メリット・デメリットがあると思います。 「広い内容の話が聞けた」「三人からそれぞれ異なる観点で健康について学ぶことができた」など、オムニバスのメリットは活かされていたと思います。 2名がTeamsを使い、1名がWebclassを用いた授業でしたが、Webclassに慣れていない学生さんが多かったようです。 また、教員によってスタイルが違うため統一して欲しいという意見もありました。オムニバスのデメリット部分になります。それぞれの教員が得意とするスタイルがあるので、完全な統一は難しいと思いますが、可能な部分は統一していくという努力は必要だと思います。 資料内容やポータルサイトの運用などについても、適宜見直しをしていきます。</p>
スポーツ科学	<p>授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。</p> <p>【良かった点についての自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康に関しての新たな発見があり、食生活や運動習慣を見直す契機になった点。 ・体に必要な運動を知れた点。 ・人の体と健康、運動などの重要性を知ることができた点 ・飽きのない授業内容 ・学校の保健で習った事よりも踏み込んだ内容も教えてくれた <p>【改善点についての自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>⇒シラバスの内容をベースに、毎回のレスポンスシートの内容や受講生のみなさんとディスカッションしながら興味関心度の高い話題も柔軟に取り入れるようにしました。 授業がきっかけで健康づくりの意識が高まったり、個別指導を受けたりする等、行動変容につながった方もおり嬉しく思っています。次々と新しい理論や技術などが出てきますので、それらを踏まえつつ、今後も一緒に健康づくりができることを楽しみにしています。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(基盤教育群)

科目名	授業改善計画
スポーツ実技	<p>授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。</p> <p>【良かった点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルス感染対策をしっかりとした上で楽しめるような授業だったこと。 ・苦手な種目も無理せず楽しくプレーできた。・交流の場として活用できた。新入生にとって人間関係づくりに必要な講義であると感じた。 ・科学的な面からスポーツの良いこと悪いことを学べた点。 ・自分に合ったからだの動かし方や体づくりの基本がわかり日常生活にも広く役立つ。 ・体のづくりを説明しながらだったのでより理解しやすかった。 ・ダイエットなどネットよりはるかに安心して確実な情報を得られた。 ・専門的な知識で納得する話をしていた点。データを多く用いていた点。 ・毎回のレスポンスカードで、到達度が確認できたこと。 ・楽しみながら、自分の体の現状を理解できる点。また、その改善につながることを教えてくれる点。 <p>⇒競技スポーツが苦手でも、工夫次第で個人でもグループでも楽しくエクササイズできることを多くの方に理解してもらえたようで嬉しく思います。授業は終了しましたが、今後生活の中に定期的な運動を取り入れつつ、食事、睡眠などとの関連も踏まえた「今の自分に最適な健康づくり」に取り組んでみてください。</p> <p>【改善したほうがよい点】(2点)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスクをしながらの運動は少し危険だと感じた。体調チェックシートを提出しているにもかかわらず、厳密すぎる対策をしており、危険だと思う部分もあった。 <p>⇒本科目におけるコロナ感染症対策は、関係省庁、他大学、スポーツ指導者研修会等の基準を踏まえながら本学の状況に合わせて定めています。そのうち、マスク着用を想定した運動の注意点や授業の進め方やルール等については、履修確定前に確認していただけるよう、初回ガイダンス及び第2回目での説明に加え、毎回の授業でも“練習中、試合中にもかかわらず、少しでもマスク着用による違和感があった場合は、即アリーナ外(屋外エリア、エントランス等)に移動し、マスクを積極的に外して呼吸を整え、体調をチェックすること”等とアナウンスしてきました。</p> <p>また、「体調チェックシート」については、あくまで授業日の過去一週間の発熱、風邪症状等の有無しか把握できませんので、特に無の感染者を想定した対策としてはマスク着用等、他のいくつかの対策と組み合わせる必要がありました。体育館では、熱中症モニター、CO2濃度モニター、大型ファンを使用しながら、安全に行える範囲で運動要素や運動強度などを柔軟にアレンジしていますが、熱中症等の危険性は個々の運動能力、体力、その時の体調などによって個人差がとても大きいので、次年度以降は、各自にとってより適した運動量、運動強度となるような進め方やルールの工夫、現場での情報提供・指示等を徹底したいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義資料の配布がなかった点。 <p>⇒遠隔で行った理論編については、本科目で扱うデータや動画資料等の配布に著作権上の問題があったということもありますが、より対面に近い状態になるよう、穴埋め式のPPTスライドと口頭説明を組み合わせるメモをとっていただく形式にしました。聞き逃した部分はもとより、個々のトレーニング方法等については個別対応をすることをアナウンスしていましたが、次年度以降は授業形態に合わせて資料配布についても工夫していきたいと思えます。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(基盤教育群)

科目名	授業改善計画
体を動かす楽しみ(食産)	<p>授業評価アンケートへのご協力をありがとうございました。</p> <p>【良かった点についての自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験したことがないスポーツを知ることができた。 ・毎時間楽しく講義を行うことができた。 ・体調管理、コロナの発生防止の方法がよかった ・コロナ禍の中でも、高校までの体育では学べなかった運動を体験できた。 ・体育を楽しめる配慮が沢山見受けられた点。 <p>【改善点についての自由記載】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>⇒競技スポーツが苦手でも、レクリエーション要素のあるニュースポーツを中心に選択したり、さらに集まったメンバーによってルールを工夫したりすることで、個人でもグループでも体を動かすことの楽しさを実感できたようで嬉しく思っています。授業が終了した後も、生活の中に定期的な自分に合った運動を取り入れ、積極的に健康づくりに取り組んでいただきたいと考えています。</p>
日本語Ⅲ	<ul style="list-style-type: none"> ・大学で必要となる4技能にもう少し特化する必要があったと思う。特に、書く力をつけることは、重要であり今後は、人数などを見ながら、できる限り文書の手直しをしていきたい。 ・学生の出身地により、発音の困難な箇所が異なっていることに気が付く。今後の指導には、その点も注力する必要がある。
コミュニティ・プランナー概論及び演習	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【自由記載:良かった点】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現場で実際に活動されている方のお話を伺う事ができたのはとてもよかったです。 ・ゲスト講師の授業が大変興味深かった。また、前半の各回で別々の先生から話を聞いた上で、その中に共通する学びや観点・手法について後半詳しく学べるという構成が良かった。 ・グループワークが多かった点。それぞれが考えたプロジェクトの発表などは自分のプロジェクトの修正に繋げることに非常に役立った。 <p>→実践の前段階として、実際に地域社会でコミュニティ・プランナーとして活動している方々の講話を設定した。そこから得られた知識だけでなく、彼らの姿勢や地域への想いを、コミュニティ・プランナー開講科目をはじめとした今後の学習活動や実践に活かして欲しい。来年度以降も地域活動の実践者の講話を設定していく。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(看護)

科目名	授業改善計画
人間発達学	<p>自由記述の主なものは以下のとおりです。</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多くの視点から発達について学ぶことができた点。 ・とても興味をひく授業内容で面白く、意欲的に講義に参加できた点。人生と重ねて学ぶことができた点 ・説明と内容も分かりやすかった点。音楽や映画を例に説明していて、理解しやすかった点。 ・興味関心が惹かれやすいような話の仕方をしていた点。 ・講義内の短い休憩時間があることで、集中力が持続し、授業があっという間に感じた点。 ・言葉選び、学生の要望への対応、何事にも生徒一人一人に丁寧に接していた点。とてもやさしくてよかった点。 ・いろいろなお話を聞けて楽しかった。 ・授業のグラウンドルールであるダイアログの3つの姿勢という考え方が非常に興味深く、面白かった点。 ・講義内容はもちろん、普段の生活を営む上で参考になる知識や考え方が盛り込まれており、学びが多かった点 ・学生と相互の授業形態で、意見をリアルタイムで言える点。 ・slido(筆者注:オーディエンス・レスポンス・システムの名称)を使用していた点。匿名で意見を言えるシステムが良かった。周りの目を気にする羞恥心がなくコメントできた。 <p>授業中に他の人と意見交換ができて、自分以外のひとの考えをみることができ、より学びが深まった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まとめのページがあって見やすかった点。 <p>改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義資料は授業中見たらわかりやすいがテスト前などに見返すと少し分かりにくかった点。毎回プリントを用意して欲しい点。 <p>プリントを印刷しない理由を引き続き丁寧に説明し、メモの取り方の工夫を教授し、事後学習を充実します。</p>
保健行動科学	<p>自由記述の主なものは以下のとおりです。</p> <p>良かった点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料はポイントが押さえられており、レポートを記述する際に見返したが自分でも復習しやすい点。 ・説明がわかりやすかった点。 ・理解しにくい部分を具体例を出して説明していたことで理解できた点。 ・講義の最初に今までの講義内容の復習をしていたことで毎回復習できた点。 ・休憩を20分ごとに1～2分ずつ挟んでいた点。 ・slido(筆者注:オーディエンス・レスポンス・システムの名称)を用いた双方向型の講義形式だった点。 <p>改善したほうがよい点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義終了に近づくにつれ、300講義室の外に人が集まってきてうるさかったので、注意していただきたかった点。 ・授業中ではメモが追いつかないときがあったことから資料にも少し詳細の説明が欲しいと感じた点。 <p>教室外で待機中の学生に対して受講生の学習の妨げにならぬよう配慮を要請し、他の科目教員と連携して静寂な授業環境の維持に努めます。</p> <p>授業のスライドには、重要な点を記載しています。そして、授業では、スライド内容の理解に重きを置いて説明しています。</p> <p>スライドに記載していない内容について授業で説明することはあるものの、双方向性の授業では自然なことです。その内容は授業のスライドに掲示した内容と比べて、相対的に優先度が低い内容になります。これらの点について、初回の授業で十分な説明を行い、メモの取り方の工夫を教授し、事後学習がしやすくなるようサポートいたします。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(看護)

科目名	授業改善計画
医療倫理学	<p>授業評価アンケート「自由記述欄」の記載をみると、「良かった点」などプラスの記述が22件、「改善したほうが良い点」6件であった。改善要望として、最多は「スライドをもう少しまとめることができるのでは無いかと思った」「資料の図が少し多すぎるので、もう少し厳選して重要なところをわかりやすくしてほしい」「スライドが少し見づらかった」「資料が少し見づらい」(いずれも記載のママ)、次いで「レポートが多く大変でした。15回に講義を収めてほしいです」「レポートの提出をwebでできるようにしてほしい」そして、「ユニークすぎて理解が追いつかないことがありました」の順であった。</p> <p>改善点を示す。講義の際、注意点として、スライド・映像資料は記憶する内容を示したのではなく、スライド・動画資料を参考にして、思考し表現するためのツールであることを繰り返しご説明する。また、どうしても記憶しなければならない内容は、小レポート作成のプロセスの中で記憶できるようになっているので、小レポートの課題に取り組み講義内容を振り返ることで、大切に重要な事柄が身につくことをご説明する。</p> <p>また、最新かつインパクトの強い動画の割合を増やして、よりリアルに、わが身のこととして課題に取り組めるよう工夫する。</p> <p>医療者の立場で、思考し、判断し、行動する際、最大のテーマは「死」のありかたである。誰ひとりとして、自分自身の「死」を体験してから再び甦った人はいないので、患者の「死」、愛する大切な人の「死」、そして、自分自身の「死」について、様々な資料・映像を通して考え、考えた内容を自分なりに表現することは実は容易ではなく、時間とエネルギーが必要である。</p> <p>「死」のありかたをはじめとして、この医療倫理の時間は、何かを記憶する時間ではなく、とことん考え、悩み、表現する時間である、そのことを繰り返し繰り返しご説明する。</p> <p>自由記述で「ユーモア」5件、「面白い」3件、「楽しい」2件と、学生諸君が、深刻なテーマに連続して取り組みつつも、元気の出る、そして、癒される時間があつたことは、誠に喜ばしい。</p> <p>将来、臨床の場で、日々生き生きと、癒しをなすプロフェッショナルとして活躍される学生諸君の成長の礎として、この医療倫理時間がより活用していただけるようさらに工夫を重ね</p>
形態機能学Ⅰ	<p>試験時間をもう少し長くしてほしいです。 テストの時間が短すぎた。</p> <p>回答: 講義の初回にも説明しましたが、教科書を見ながら(カンニング?)オンライン試験を受けても仕方ないので、十分学修すれば解答できる難易度の問題で時間を設定しています。改善して欲しい点は早めに、そして具体的に伝えてください。可能な範囲で対応します。講義の初めのうちであれば、そのまま受講者のメリットになります。</p>
形態機能学Ⅱ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>
社会福祉学	<p>科目「社会福祉学」は、看護学を学びながら医療職を目指す履修学生にとっては、必ずしも興味や関心の高い科目の性格ではない点を意識しながら、授業準備し授業展開に取り組んだ。社会福祉を全体的に理解していただくために、社会福祉を歴史的に理解すること、社会福祉を制度政策的に理解すること、社会福祉を方法・技術的に理解することの3点から講義を行い、各回授業には医療(病院や施設等)や医療職との関連性を踏まえて授業を進めた。</p> <p>授業の各回が進むにつれて、看護学の学修において隣接領域の社会福祉を学修する理解が深まったり確認できた学生と、他方で授業に対する興味や関心が薄らぎ履修取り消しに至った学生もいる点も事実である。そのため毎回の授業で、単なる抽象的な講義に陥らないように、社会福祉の制度政策の実際や事例、医療との関わりも講義のなかに織り交ぜたが、その意図が十分に伝わらずに理解や関心につながらなかった履修学生も若干いるようである。</p> <p>そのため、今後の授業の改善としては、90分間の授業展開のなかでの講義を踏まえて、体系的な学修の時間、考えをまとめる時間、周囲と意見交換する時間等の明確な時間配分を意識しながら、学修内容に対してさらに自己理解が深まるような取り組みを目指す授業として改善したい。</p> <p>また、社会福祉の実態や医療との連携に対してより理解が深まるように、さらに数値的動向や新たな新聞資料を交えながら講義を準備することを検討したい。</p>
保健医療福祉行政論	<p>履修学生の多くは真剣な態度で授業を受け、試験結果は全体的に良好であった。一方、昨年度からの科目責任者の変更に伴い、これまでのゲストスピーカーも変更した。ゲストスピーカーの講義を時間割通りに配置することが困難であり、土曜日に講義を行うなど日程の変更が生じた。次年度はこの点を改善し時間割通りの実施としていきたい。</p>
学校保健論	<p>2年生前期の学習として授業内容、要点・内容の整理が適切であるかを見直し、個々の学生が目標到達に至るよう改善する必要がある。事前学修については、原則として前時の授業において連絡する、提出方法やフォームをできる限り統一などを検討する。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(看護)

科目名	授業改善計画
病態学	<p>授業資料をもう少し分かりやすくしてほしい。 回答: 毎年少しずつ分かりやすいように何らかの変更はしています。今後とも努力します。資料は理解するための最低限を書いています。覚えるべき最低限ではありません。こちらの希望としては、疑問点や要望はできるだけ早めに、そして曖昧ではなく具体的に伝えてください。そうすれば、皆さんの直接の利益になります。質問をしない学生が多いことは非常に残念に思っています。</p> <p>レポートをどのように書けばいいのかよく分からなかった。 回答: レポートの内容は基本的に作文なので筆者自身のオリジナルです。読者が理解できる「作文」であればOKです。コアは学修すれば記述できる範囲内のものです。</p> <p>出席コードを教えあって欠席しているのに出席扱いになっている学生がいます。真面目にやっている人だけを評価する対策をお願いします。 回答: 性善的に対応していたので、あまり対応していませんでした。対策が必要かな??</p>
疾病論Ⅰ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>
疾病論Ⅱ	<p>学生さんたちは毎回確りと授業についてきてくれました。期末試験でもよく勉強し、頑張りました。今後も、遠隔授業、対面授業に関わらず、学生さんたちの反応を見ながら、分かりやすく楽しい授業をしていけるような努力を続けていきたいと思っております。</p>
リハビリテーション学	<p>すべての項目について宮城大学の平均値よりも高く、臨地のゲスト講師の講義を多く取り入れた実践的な学習が積み重なり、学生の皆さんの満足度も学習到達度も高かったと考えている。時間割配置上の履修しにくさがありながらも、最後まで授業の参加度や課題への取組成果は非常に高かったと評価している。 「課題が多く、負担になった」という改善への意見があった。当初、筆記試験ではなく課題による評価をするにあたり、毎回の小さな課題を積み上げるか、まとめた課題が良いかについて、履修者全員で決めて頂くスタイルをとった結果、毎回の課題となった。そのため、復習(事後学習)としての課題の内容にするよう配慮していた。 また、単に知識を確認する課題ではなく、講義をふまえた学生自身の意見を短くまとめる課題であったことから、その負担感や時間を要した学生がいたのだろうと推察している。さらに、他の科目の課題が重なる時期には負担感が大きくなったのだろうと考えているが、課題の様子を尋ね、提出期限を修正するなど、できる限りの配慮はしていたと考えている。 時間割配置および課題のタイミングについては次年度以降、可能な限り検討したいと考えている。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(看護)

科目名	授業改善計画
看護情報学 I	<p>この授業に関して、良かった点</p> <p>グループで協働して課題を進めることができた 楽しみながら学びを深めることができた。 →グループ単位での作業が中心になるとどうしても個人差が出てくることもあり、コントロールが難しいこともありますが、今年度に関しては問題なさそうです。</p> <p>改善したほうがよい点</p> <p>授業に関係ない話が多い、自分の興味のある話ばかりをする傾向がある。 出席管理方法 →講義中の話が講義に関係づけられないのは残念ですが、事例などは少し検討したいと思います。 出席については「ただ出ているだけ」の出席管理は望ましいと考えていないため、講義全体を通してグループワークへの参加の度合いとして評価しています。</p> <p>その他、意見、感想、要望など</p> <p>よくわからなかった →残念ですが話し方を検討します。</p> <p>席に座っている学生に対して、誰かが感染予防のルールを違反して座っている可能性があるという不確かな情報をもとに、どの学年のどの学群生がどの講義で違反し始めたのか全く見当もつかない事柄であったにもかかわらずたまたまこの講義がある日に仕方なく座っていた学生を間違いなく違反を始めた者だと決めて、他の学生が違反しているという可能性については一切触れずに、学生証を写真にとって指導している様子があった。見ていて →何を言いたいのか分かりませんが、違反をしていたという事実は変わりません。</p> <p>必修にするのであれば「看護」に生かせる講義を行ってほしかった。 →講義内容は是非「看護」に生かしてほしいです。</p> <p>グループワークでも出席を取ってください。明らかにさぼりで欠席してほとんど何もしていない学生が複数いました。真面目にやっている人は評価して、そうでない人は評価しないシステムを確立していただきたいです。 →出席は「ただ出ているだけ」の出席管理は望ましいと考えていないため、講義全体を通してグループワークへの参加の度合いを評価しています。</p> <p>何を目的とした講義なのか、また、なぜ看護学生がこの科目を受講しなければいけないのかが分からなかった。 →看護研究で調査することがあるので、その時に必要な情報を提供していますが、うまく伝わらないのは残念です。</p>
応用看護情報学	<p>履修者が3人と少数だったために学生自身が問題解決を図るような演習内容としたため、学生は主体的に調べて実践することができたものと思われ、今後も続けていきたいがその一方でこのような方法が採用できるかは履修者数に依存するので、次年度以降履修者がより増える、またはもっと少なくなった場合の演習の方法について検討する必要がある。</p>
看護学原論	<p>昨年に引き続き、今年度も学生の参加型の授業を取り入れることで学生の主体的な学習を促すことができた。これまで自分の生活や健康についてあまり考えたことのない学生が増えており、具体的な事例を用いながらケアすることの意味や難しさを考えさせる必要性が強まっている。次年度も引き続き、倫理的課題や対人援助に関する事例を用いて思考が发展させられるような機会を設ける。 学生の体力が落ちている印象があり、途中で休憩を入れないと集中力が持続しないので、講義の全体を3分割して間に2回何らかのワークを入れるなど、メリハリのある組み立てを検討する必要がある。今年度は講義中は特にITを用いたフィードバックは行わなかったが、次年度はFormsやMoodleの投票などを用いて講義の途中で学生からのフィードバックを導入する予定である。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(看護)

科目名	授業改善計画
ライフステージ看護学概論Ⅱ	<p>○母性看護学に関して 今年度は、遠隔授業に対応するため、講義資料をすべて事前にTeamsにアップロードしておきました。シラバスと資料には、教科書との関連を明記し、また最新の情報を取り入れることに努めました。教員自身も楽しんで授業ができたことが、アンケート項目の全て(授業外の学習時間を除き)で全授業の平均値より評価が高く、また昨年度と比較してもよい評価に繋がったと思います。看護の対象となる方々の、また学生さん自身のリプロダクティブヘルス/ライツを大切にしてくださいを願っております。</p> <p>○精神看護学に関して 今回の授業評価では「わかりやすかった」「興味を持つことができた」などのフィードバックをいただきました。精神機能の成長発達という目に見えにくい現象を皆さんにわかりやすく伝えるために、事例や当事者の言葉・体験記、動画を活用し、授業を組み立てました。また、ロールプレイ演習を取り入れ、コミュニケーションを意図的に使うことで精神機能の発達が促進されることも体感できるように工夫しました。引き続き、わかりやすく、関心を高められる講義を提供できるように工夫していきたいと思っております。</p>
看護学研究法	<p>難しいところがあったが、分かりやすい説明があったという感想もある一方で、難しいと感じるという感想も見られた。卒業研究につながる授業であり、具体的にわかりやすい授業に改善していくことで、研究計画立案や文献レビューに役立つように工夫していきたい。</p>
国際比較看護論	<p>履修者全員が、学修の到達目標に達することが出来たために、次年度も継続して文化に配慮したケアや国際看護に関して、学びを積み重ねることが出来るように計画・実施していく。</p>
救急・災害看護論	<p>本科目の回答平均値は、大学全講義の平均値に比べると、全項目で上回る結果となった。しかしながら、「要点明確化・内容整理」「マナー配慮」に関して、低めの得点を示していた。担当教員の説明方法について、見直しを行い、学生にとってわかりやすく、かつ、適切な表現での講義が必要であることが示唆された。</p> <p>また、例年と同様に、臨床現場での実践家である救急看護認定看護師を東北大学病院からゲスト講師として招聘し、救急看護の専門性を教授することを目指した。アンケート結果を確認すると、外部ゲスト講師の講義内容が好評であり、4年次の国家試験を控えた学生たちにとって適切な難易度で臨床現場の実際に即した救急看護・救急医療を学ぶことができたと考えられる。</p> <p>今年度の心肺蘇生演習はシミュレータ人形を用いて、心臓圧迫・人工呼吸の程度を可視化させながら演習を行った。また、トリアージ演習を実際のトリアージシートを用いて行った。アンケート結果からも演習での取り組みが効果的であったことが伺える。</p> <p>一方で、改善してほしい点には教科書の購入が挙げられていた。教科書内容に基づいて、救急医療の講義を行っていたが、教科書との関連や何ページに記載されているかが示されていなかったため、学生は教科書の必要性について疑問の声が挙がったように思われる。来年度は教科書のページを示しながら、講義することに配慮が必要だと考えた。</p>
看護援助技術論Ⅱ	<p>授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、概ね良好な評価だったと思っております。</p> <p>自由記述でも、講義資料や内容・説明のわかりやすさ、授業運営、教員の丁寧な指導についてよいコメントをいただき、この点については継続していくようにします。</p> <p>改善点としては、他の科目との課題量の調整、事例の難易度について意見がありました。課題について他の科目と調整することは困難ですが、取り組む時間の確保や量については検討したいと思います。また、看護過程の事例については、他の科目の学習進度と合わせて理解しやすい事例に改善したいと思います。</p>
看護援助技術論Ⅲ	<p>授業評価はすべての項目で全授業の平均値よりも高く、概ね良好な評価だったと思っております。</p> <p>自由記述でも、講義資料や説明のわかりやすさ、教員の丁寧な指導についてよいコメントをいただき、この点については継続していくようにします。</p> <p>改善点やその他の意見・感想・要望として、筆記試験と授業環境、演習時のグループ分けについて意見をいただきました。</p> <p>筆記試験の出題方法・範囲等については、講義・演習においてポイントとなる点は強調して伝えていきますので詳細を伝える必要はないと考えています。どのような出題方法でも解答できるように学習してほしいです。</p> <p>グループ分けについては、演習内容により考慮したのですが説明が不足していたところもあると思っております。</p> <p>教員の配置についても公平性を考慮し、一人一人の教員が学生全体を見ることが出来るように改善したいと思います。</p>
母性看護援助論Ⅱ	<p>講義資料は今後も学習に役立つように改善をしていきます。また講義最後の小テストは復習にも役立っているため継続していきます。</p> <p>演習時間を増やしてほしいという意見があり、さらに充実した演習内容を検討します。演習の看護過程の展開を提出課題としてほしいというご要望には応えていきたいと思っております。</p> <p>夏休み課題を手書きではなくワード提出にというご要望についてはお応えしたいところですが、もう少し検討が必要となります。ご了承願います。</p>
小児看護援助論Ⅱ	<p>この授業に関して、ご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>今後も学生のみなさんの学びが深まるよう講義資料や演習内容の改善を行っていきます。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(看護)

科目名	授業改善計画
成人看護援助論Ⅰ	ほとんどの学生が積極的に学修に取り組み、成人期の看護について、基本的な知識を修得し、事例検討を通して多面的に患者を捉える力がついたと思われる。授業アンケートの良かった点として、「わかりやすかった」の意見がある一方で、改善点として「もう少し詳しく説明してほしい」との意見もあげられた。事例の捉え方(アセスメント)は、基礎看護領域の授業でも並行して行われる。科目の関連を捉えて、理解を深めた学生と、学修する科目及び課題が多く戸惑う学生があったのではないと思われる。今後、学生個々の疑問に応じられるような事例検討の指導体制を検討したい。
成人看護援助論Ⅱ	「講義後に確認問題があり復習に取り組みやすかった」、「講義後のレスポンスカードや質問に答えていただけたことが、疑問点の解消や学修の深化につながった」という意見があった。今後も、レスポンスカードに対する返答、必要時授業の振り返りを行い、学生が主体的に学習できるように、学習環境を整えていきたい。また、教材については、「講義資料がわかりやすかった」、「事例検討課題のモデル人形の見学により、ADLや苦痛について考えやすかった」との意見があった。今後も周術期の看護について具体的にイメージができるよう、様々な教材を活用し授業の展開を行う。講義内容については、「講義においても技術演習を取り入れて欲しい」という要望があった。成人看護学領域の教授内容は幅広く、技術演習を取り入れることは時間的に難しい側面があり、事例患者の演習(早期離床の支援)を、後期に開講される成人看護実習の急性期実習初日に行っている。そのため、疾患や術式に応じて必要となる看護技術や留意点などを講義内で具体的に提示しながら、自己学習に繋げられるように今後も学習を支援したい。事例検討課題では、「フィードバックについて教員間の差がある」との意見があった。各グループの学習状況および指導内容について各担当教員と共有を行う他、全体共有の時間を設けることにより、学習目標が到達できるようにする。本年度より、教科書の購入は、電子書籍または書籍(紙媒体)を選択できるようにしたが、「電子書籍と教科書のページがずれていることを購入前に教えてほしい」との意見があった。電子書籍では、電子書籍および紙媒体に示されているページ数のどちらも提示していることを、予め情報として提示するようにしたい。
成人看護援助論Ⅲ	双方向授業や、最も重視している対象理解について学べたこと、療養体験演習や看護過程に関する教材に対する良い評価意見をいただけた。どうしても成人看護学の領域は、各論の幅が広いこと、また、「考えること」を学習として求めたことから、その素材となる資料は、テキストを超えて種々準備していた。その資料の質(濃さや大きさ)の悪さや、盛りだくさんで要点がつかめないなどの改善点の意見もあった。要点については、復習部分との区別をしたり、特に重要な部分については、講義中に全教員が述べていたり、そもそも幅広い領域であるために要点しか講義で含められない面もある。次年度は、資料作成や講義中での強調を、全教員で改めて意識するようにしたい。また、電子教科書を十分に活用することができず、紙冊子教科書とページがずれている点の意見があったが、気が付かなかったことは教員側の確認不足である。できれば、気が付いた時にレスポンスカード等でお知らせいただけると、講義期間中に修正等、学習環境を整えることができると考えている。期末試験の解説が欲しいという意見については、講義資料の範疇からの出題であることを事前に周知していること、そのような問題の性質上、全体には解答・説明は開示しない。質問や解説を望む場合は個別に対応することを周知し、要望した学生には個別対応していた。主体的に学習し問題解決を図る行動をとれることも重要な学習の一つであると考えているため、本科目での当スタイルは継続する。本科目は、成人看護学の対象論および援助論を教授する科目であり、臨地実習等、現場で学んだ知識を活用して、受持ち患者の理解や看護実践につなげることで学びが深まり、学生自身のものになっていくものと考えている。
老年看護援助論Ⅰ	次年度も引き続きアクティブラーニングをより強化するとともに知識提供の際の説明のわかりやすさの改善をしていく。ワークシートの活用方法について説明不足という意見が挙げられており、学習活動をより促進できるよう例示を加える等の改善を行う。また、次年度もフィールドワークを実施する予定であり、covid-19の感染状況を考慮して柔軟に計画する。
老年看護援助論Ⅱ	学生の主体性を引き出す講義内容・方法については、各単元での目標を丁寧に示しながら来年度も引き続き行っていく。看護過程の展開で使用しているエクセルファイルについて、使用しづらさの意見が多いため、Wordファイルの使用やエクセルファイルの工夫を行い、また、課題内容を端的に示しながら自己学修がスムーズに行えるようにする。複数回のミニテストへの肯定的な意見がある反面、評価割合が大きいとの意見もあり、来年度に向け、回数や実施方法、割合について検討する。

令和3年度前期 授業改善計画(看護)

科目名	授業改善計画
精神看護援助論Ⅱ	<p>授業へのご意見をありがとうございました。講義内容に対する改善を求める意見はなかったのですが、今後もこのような内容で組み立てていきたいと思えます。</p> <p>【よかった点についての自由記載】(抜粋) ・最初に事例検討を行ったことで、アセスメントの方法定着につながった。プロセスレコードを実施したことも実習に向けて非常に意義のある体験だったと感じた。 ・精神疾患を有する当事者から直接お話を伺えてよかったです。 ・コラージュ療法が楽しかった。映画や本、マンガの紹介をしてくれることで、楽しみながら学習できた。 ⇒ご意見、ありがとうございました。引き続き、来年度も学びを深められるように講義を組み立てていきたいと思えます。</p> <p>【改善点についての自由記載】(抜粋) ・Web Classが使いにくい。 ・授業資料はTeamsにアップしてほしい。 ⇒ご意見、ありがとうございました。電子媒体について今後検討します。</p>
地域看護援助論	<p>授業評価の全項目において、回答平均値は全授業の平均値とほぼ同程度であった。自由記載では、地域診断の演習に対して高評価のコメントが寄せられた。一方、試験内容や評価に対する意見、保健師課程を選択しない学生の履修の必要性に関する意見が寄せられた。これらの点を検討しより良い授業に向けて改善を図っていききたいと考える。</p>
看護マネジメントⅠ	<p>授業構成や内容については到達目標達成に向けて網羅的に組み込んであり、特に問題はない。配布資料については事前に配信しており、ペーパーレス(パソコン持参)か、あるいは各自印刷して、授業に臨むように伝えていたが、直接配布を希望する学生もいた。感染予防の観点から直接配布は控え、学生に理解を求めていく。</p>
看護マネジメントⅡ	<p>本科目は、看護学群の最終学年として、今後の自分の専門職としてのあり様にどのように向き合うべきかを考え、その考えを言語化していくことに主眼を置いている科目である。評価も到達目標に対応したレポート課題と毎回の授業内容に関する各自の思考を表現することによるものにしており、特に問題ないと考える。総合実習により、実質的な授業が13回とならざるを得ないため、オンデマンド配信や授業の順序性をさらに効果的に配置するなど、引き続き工夫をしていきたい。</p>
在宅看護援助論Ⅱ	<p>在宅看護援助論Ⅱでは、2年次の在宅看護援助論Ⅰを踏まえて、実際に在宅療養者の看護をどのように展開していくかを学修し、理解すること目的としています。そのため、例年は、講義内での話し合いや、在宅療養者が実際に使用している医療機器、福祉用具に触れる機会を設定し、知識や思考力を高められるよう授業を組み立てています。昨年度に引き続き、本年度もコロナ禍にあり、演習や学内でのグループディスカッションの実施ができるか懸念されましたが、業者の方等の協力を得て、福祉用具の演習はすることができました。また、短時間にはなりませんが、看護過程でもグループメンバーと話し合う時間を設定したことで、意見交換ができて良かったというレスポンスがありました。一方、知識面では、在宅看護の学修は、法制度で使われている用語を正しく覚える必要がありますが、繰り返しの学修が必要であり、まだ知識としての定着に至っていない状況が見受けられました。看護過程の展開でも、必要となる知識が幅広く、多面的に捉えることが求められるため、知識を用いて適切に表現することが難しかった様子が窺われました。以上のことから、今後は、必要な知識を活用しながら、思考を記述し、グループで確認しあったり、知識や考え方を学び合える機会を取り入れていきたいと思えます。課題も事前・事後学修に繋がることを想定していましたが、より自己学習や知識の定着に活かせるよう、フィードバックや小テストの実施のタイミングを検討し、効果的な学修の機会となるように工夫します。</p>
緩和ケア論	<p>学生が、就職活動を並行しつつ、計画的に学修をすすめるために、ビデオ視聴による予習、事例検討課題を授業初日に提示した。ほとんどの学生が積極的に学修に取り組み、考察を深めることができた。外部講師の都合により授業順序を一部修正した。この事については、授業展開及び到達には大きな影響はなかった。授業アンケートの良かった点として、「体験談を説明」「外部講師による実践的な看護の紹介」があげられた。4年生科目であり、看護の実践的な内容を盛り込むことで、関心を高めることができたと思われる。今後も、外部講師による実践的な看護を紹介すると共に、緩和ケアの理解と実践的な課題を考察できるように、授業を計画する。</p>
公衆衛生看護援助論	<p>授業中の態度等については、履修学生は全体的に真面目さが感じられた。授業外の学習時間の平均は1.1時間であり、全授業の平均値1.5時間より少なかった。本科目は水曜日の2限目に開講しており、その前後は空き時間となっていることからこの時間を予習・復習にあてることが可能である。今後についても最新の情報を正確に伝えることを意識し、より良い授業に向けて一層の改善を図っていききたいと考える。</p>
公衆衛生看護活動論Ⅰ	<p>演習があることにより、講義内容の理解が深まることが考えられたので、今後も公衆衛生看護活動論演習Ⅰと対応させながら授業計画を組み立てていく。実態として、授業時間外の学習時間が少ないので、次年度に向けては具体的課題の提示をしながら自己学習が進められるように支援していきたい。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(看護)

科目名	授業改善計画
公衆衛生看護活動論Ⅱ	「授業外の学習時間」の平均は1.2時間であり、全授業の平均値1.5時間より短かったが、履修学生は全体的に皆が真剣に授業に臨んでいた。演習にも積極的に取り組んでいた。より良い授業に向けて一層の改善を図っていきたいと考える。
公衆衛生看護活動論演習Ⅰ	来年度は活動論Ⅰの主担当からは外れるものの、今後も公衆衛生看護活動論Ⅰと対応させながら授業計画を組み立てられるよう、連携していきたい。実態として、授業時間外の学習時間が少ないので、次年度に向けては具体的課題の提示をしながら自己学習が進められるように支援する。
公衆衛生看護活動論演習Ⅱ	履修学生は全体的に皆が真剣に授業に臨んでいた。健康教育の演習にも積極的に取り組んでいた。授業評価の全ての項目の平均値は、授業全体の平均値より高かった。より良い授業に向けて一層の改善を図っていきたいと考える。
健康相談活動	事前学修については、原則として前時の授業において連絡する、提出方法やフォームをできる限り統一することを検討する。同時期に実施される、「総合実習(学校看護)」の日程や内容の重なりを調整する必要がある。
教職論	到達目標の設定にあたって、専門職連携(チーム学校)の内容を加えておく必要があると考えている。教員の職務、学校経営に関する研究の知見をまとめて授業内容に組み込んでいたが、それらを到達目標として意識づけ、授業内容を洗練していきたい。
教育学概論	養護教諭を目指している学生とはいえ、教育の思想、歴史という馴染みのない内容が中心となっているため、まず持って関心を持って取り組むことが難しい状況にあることがわかった。 次年度は①歴史や思想に触れやすい領域を意識し、中学校や高校までの学習内容をふまえたり、フォローしたりする取り組みを適宜入れつつ、学習を指導していく②学校や教育についてのイメージを共有しながら、教育の思想、歴史と照らし合わせながら理解できるように指導していくことを心がけたい。
教育心理学	最初の教職科目ですが、教職基礎にあたる科目なので、内容的に抽象的なところがいくつかあったと思います。教職基礎科目として、幅広い関心・知識の修得が必要となるため、要点を絞って教えるということになじみにくい科目です。あらかじめ、理解しておいて欲しい用語や内容について提示していきたいと思います。 事前・事後学修時間が不足しているので、課題等を出すことで学修時間の確保を進めていきたいと思います。
教育の方法	最終学年の教職科目ということで、これまで教職科目で学んできたことの総まとめ的な意味の科目として授業を行っています。養護実習についても意識し、養護教諭以外の教諭の職務についても理解できるような内容にしています。他の先生方との連携という視点で考えることができるようになってもらえればと思います。 できるだけ学校現場の問題を絡めた授業内容にしていきたいと思います。
道徳、特別活動及び総合的な学習と生徒指導	4名の教師が担当するため、授業の構成が多様である。 各授業時にシラバスの到達目標との関連について説明するなどして、学生が目標に到達できるように配慮する。

令和3年度前期 授業改善計画(事業構想)

科目名	授業改善計画
地域政策概論	本科目は、今年度で閉講となる。
ビジネスモデル論	ビジネスモデル論は、事業プランニング学類でも地域創生学類でも必要な知識であり、顧客セグメントやチャネルを考えることは基本的に重要ですが、皆さんは素晴らしい成果をあげていました。 費用と収入については、今後の授業でも学ぶ部分は多いですが、別動画でも学修していただいたので、こちらもよく考えられた内容のものが多かったです。 費用と収益については、もう少し時間をかけてもいいかもしれないと感じました。
ミクロ経済学	<p>本学の前授業の平均値に比べて低い項目について検討する。「難易・進度の適切性」が、学内平均より低かった。</p> <p>必修科目であることも勘案して難易度を調整している。</p> <p>コメントでは「理解しやすい説明」と書かれている点もあり、進度をより早くすべきか学生の反応を見て検討したい。「知識、技術等役立つ、関心」も学内平均より低かった。</p> <p>計算モデルが多用される中で、マーケットシェアなど現実的な内容も織り交ぜるようにしているが、より具体的な企業の現実の行動との関連など補足するように工夫したい。</p> <p>その他、「章ごとの目標が明示してある点」がよかったとのコメントがあったので、今後も目標と達成できたかの確認などをするようにしたい。</p>
データサイエンス	<p>退職した教員の担当科目を急遽引き継ぐことになった。</p> <p>教科書とシラバスは前任者のものをそのまま用いた。教科書は良いものであったが、半期15回ですべてを説明することは無理があることがわかった。来年度はこの教科書から話題を絞って議論したい。</p> <p>授業外の学習時間が全授業の平均値の半分程度であった。来年度は更に予習復習の課題を増やす必要がある。</p> <p>自由記述のコメントは概ね好意的であった。ネガティブな意見としては「説明が少しわかりにくかった」「対面受講者の人数が減るごとに質問を設ける時間がなくなっていった」の二つがあった。</p> <p>前者については、さらにわかりやすい説明を心がけるとともに、受講者からの疑問点をよく確認することを徹底したい。後者については、対面授業をビデオ配信し、遠隔でも受講可能としたことの副作用である。最終回の講義は大講義室で無人ライブを行う羽目になった。来年度は完全対面授業を再開できることを期待する。</p>
応用統計処理	<p>授業アンケートへのご協力、有難うございました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義およびスライド資料がわかりやすく、説明が丁寧であったといった意見を多く頂きました。1年次から学んできた統計に関する知識の定着度確認を念頭に置くとともに、問題や課題に応じて自ら分析手法を選択・展開できるようになったとの感想を頂いたことから、「データの解釈」と「統計データの整理」といった到達目標も達成できていると考えています。引き続き、わかりやすい説明と資料づくりを心がけ、上記の学びを深められるよう努めていきたいと考えます。 ・210名が一斉に学ぶオンラインによる遠隔講義であったため、学生個々の理解度に対するばらつきは大きいものがあつたと感じています。そのため、講義の難易度やスピードに対する見解・感想に対してもばらつきがありました。練習問題を複数用意するなど、学生個々の理解進度の違いについても配慮するよう努めたつもりではありますが、今後さらなる改善・工夫を検討するとともに、自身の体調管理に気をつけながら学生の皆さんと向き合っていきたいと考えています。

令和3年度前期 授業改善計画(事業構想)

科目名	授業改善計画
キャリアデザインⅡ	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔授業と対面授業の割合や使い分けについて キャリア科目は、ひとりでじっくり考え取り組む部分と、他者との意見共有が交互にあることが望ましい。そのような中で、今期はコロナ禍の影響で遠隔授業を多く設定し、意見共有については毎回のリフレクションシート全体共有、および授業内でのZOOM投票やチャット等で周りの状況を把握してもらっていた。今後、コロナの状況が改善すれば、ペアワーク、グループワークを活発に取り入れ、それぞれのキャリア形成に役立てるとともに、コミュニケーションのスキルアップにもつなげていくこととする。 ・卒業生や職業人の招聘について 今期は、コロナ禍により企業の規制も厳しく、引き受けてもらいにくい状況があった。今後は、少しでも幅広く様々な業界の人の話が聴けるよう、早くから準備を進めていくことを考えたい。
インターンシップⅠ	<p>多様な有力企業による講義を中心に、現実的なビジネスの世界や働くということをイメージできるようにしながら、2年生からインターンシップの内容や意義を具体的に理解し、自ら機会を見つけて調整できるように講義を運営する。</p>
消費者心理学	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークが中心となるが多かった。理論に関する部分についての解説については今後は割合を増やすことを検討していく
ゲーム理論	<p>本学の前授業の平均値に比べて低い項目について検討する。「授業計画のわかりやすさ」が、学内平均より少し低かった。シラバス上の表記は簡略化しているので、講義内で各回の概要を冒頭に説明するなど今後は工夫したい。</p> <p>「知識、技術等役立つ、関心」も学内平均より低かった。どうしても微分演算等の数学を用いて理論的に展開する部分が多いので、直感的にどうなっているか、現実の事象に照らし合わせてどうなっているかなど、補足するように工夫したい。その他、実験経済は実施してよかったとのコメントがあったので、コロナの状況改善に合わせてバリエーションを増やしたい。</p>
地理情報分析	<p>授業評価アンケートへのご協力ありがとうございました。</p> <p>【よかった点の自由記載】(抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各々を進度を確認しながら授業を進めていたこと。 → 引き続き、全体の理解度を確認しながら講義をすすめたいと思います。 ・たまにあったオンデマンドがやりやすかった。 → オンデマンドが良い人も、対面が良い人も一定数いるので、基本対面で講義動画を録画して実施したいと考えています。復習で動画を利用していただきたいと思います。 ・授業の後に質問対応やフォローを入れてくれたこと → 引き続き、できるだけ質問やトラブルのフォローをおこないながら、授業を実施していきたいと思います。 ・動画形式の授業を取り入れ、学生が自分のペースで何度も学修し直せる環境づくりをくださった点 → 講義動画の録画は好評だったので、引き続き、このような講義形態をとりたいと考えています。 <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし <p>【その他、意見、感想、要望など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし

令和3年度前期 授業改善計画(事業構想)

科目名	授業改善計画
多変量解析	最終回のまとめにおいて、演習課題の改善方法などを提示し、振り返ってもらっていたが、順番を入れ替え、それを取り込んで課題を改善する機会を設けるなどの工夫をしてみたい。
キャリア開発Ⅱ	<ol style="list-style-type: none"> 1) インターンシップ科目との連携をいっそう図るとともに、公務員や進学等の進路を検討する学生にも、より活かせる内容や切り口へと発展させていく。 2) 受講学生がキャリア検討に向けてより積極的に取り組めるように、学類ごとの違いや、様々な進路の可能性も踏まえてニュースやテーマを取り上げ、更に考えを深められる・視野を広げられるワークや予習を用意していきたい。 3) 教材や説明への学生の理解度を上げる為に、いっそうシンプルで分かり易い説明及び資料作成を実施する。 また、学生が到達を実感できるようなワークと課題レポートを用意する。 4) webclassの使い方が良く分からず、戸惑ったという声が聞かれたので、特に初回講義で全体的なガイダンスを行う際に、webclass利用で戸惑うことがない様に説明や解説を実施する。また、その後もwebclass活用上の問題が生じないように声かけやチェックを実施していく。
情報と環境	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は対面授業として実施したが、昨年度の改訂したオンライン授業コンテンツを効果的に用いることにより、対面授業でも学生が興味を持続しながら授業を受けてもらうことができたと考えている。授業内での演習素材についても、学生が学ぶことを重視して改善を進めていきたい。 ・期末試験成績に基づく学修理解度も概ね良好な値であり、また成績分布も優以上が多い分布となっており、学生の理解度は昨年と比べても向上したものと判断する。次年度も引き続き、レベル調整を進める。 ・コロナ対応で使用教室が変更となったこと、またTeamsの併用により、スライドや板書が見えない等の問題を解消することができた。今後も適切な授業環境を提供できるように努力したい。 ・授業評価の自由意見では、内容がわかりやすかった、楽しかった等の肯定的な意見が多くみられた。一方、課題の解説が少ない等の問題も指摘されており、これらの問題について、引き続き、改善を進める。
応用情報処理	<p>退職した教員の担当科目を急遽引き継ぐことになった。教科書とシラバスは前任者のものをそのまま用いた。教科書は良いものであったが、半期15回ですべてを説明することは無理があることがわかった。来年度はこの教科書から話題を絞って議論したい。授業外の学習時間が不足していた。来年度は更に予習復習の課題を増やす必要がある。</p> <p>自由記述のコメントは概ね好意的であったが、いくつか辛辣な意見も目立った。価値創造デザインの学生を対象にした本科目では、地域創生と事業プランニングの学生を対象にした「データサイエンス」よりも、より高度な話題を扱った。おそらくそのために「良かった点は何もない」「改善したほうがよい点はほぼ全て」「聞いていて全くわからない」「毒にも薬にもならない」「プログラミング嫌いになった」のような拒否反応が現れたのだと推測する。生活環境デザインコースを志望する学生への配慮が欠けていたことを反省し、来年度は「データサイエンス」と同水準になるようにより平易な話題を扱いたい。</p>
構造と機能	<p>コロナ禍の中で遠隔授業が前提となった昨年度に比べると、今年度は対面重視の授業運営が求められたが、講義科目の対面運営が単なる教室での出席と授業参加を前提とした拘束的な進め方に固執するような考え方で、これからの科目運営を行うことは極めて非効率的、非合理的であると考え。出席者の確認や不正(代返やカンニングなど)を取り締まることに傾倒するような過去の統制的な進め方は全く合理性に欠ける結果をもたらすことは明らかであり、科目運営として遠隔であることで達成できること、対面で時空間を共有することで成し遂げられることをそれぞれ精査し、貴重な時間空間のリソースを適切に配分、配置して大学の科目運営を展開することに対して、意欲を持って取り組み、実現していくことが肝要である。この科目の運営においても、遠隔システムを上手に採用することで、事前リサーチ、小レポートの提出とその内容を活用した授業運営、対面、或いは現場、現地で体験的な学びを行うことで座学の内容をしっかりと知識として活用できるレベルに向上させる経験を積むことなど、今後の大学教育における発展的中な開発に向けた試行錯誤に取り組んでいきたい。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(事業構想)

科目名	授業改善計画
ビジネスプロセスマネジメント	3年生前期ということもあり、ビジネス全般や企業経営についての知識がまだまだ不足しているため、実際の経営者の講義や事例から、ビジネスの構想から実施プロセスについての現実的な理解を深められるように解説する。また、情報量が多いようなので、新たに執筆した教科書に準拠しながら、少しゆっくり進める。
販売促進	<ul style="list-style-type: none"> ・販売促進及びマーケティングコミュニケーションの理論についての講義も増やす ・ゲスト講師について、販売促進の内容と少しはずれた部分があったため、それに合致するよう調整を行う
現代企業論	<ul style="list-style-type: none"> ・授業評価アンケートの結果は、「教材と説明の適切さ」が39.5点など、「学生自身の授業目標到達度」の32点を除いては、すべての回答平均値が35点を上回る結果となった。また、自由記述では「レジュメが分かりやすかった」や「事例も多く紹介され、楽しく学ぶことができた」と肯定的な意見がみられた。次年度以降も、継続してブラッシュアップを図りたい。 ・一方で、「学生自身の授業目標到達度」の回答平均値は32点とやや低くなっている。これは、上述の事前・事後学習時間の不足とも関連するものと考えられる。今後は、適切な予習課題、復習課題を課すこととしたい。
ブランディング	<p>履修者の講義に向かうための意識を高めるために</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「実社会に出た時の生活(ビジネス)習慣として、日本のみならず世界における政治・経済・マーケティング情勢等、あらゆる側面に関心を向け、それが各自の分野でどのような影響を与えるかを常に意識出来るようにする」という本講義の意図を明確にした上で、1)「到達目標」の意味と背景を初回オリエンテーションで説明し、特に重要となる「多面的視点」の意義を理解してもらうように努める。2)同時に、事前・事後学修のそれぞれで求めることを説明していく ・講義評価アンケートにあった「たまにスライド送りのスピードが早く、記録が間に合わないことがあった」という点に関しては、講義内での確認を含め、配慮を怠らないようにする ・また、「キーワード」送信、「Teams」、「大学ポータル」などを複合的に活用することで、よりキメの細かい講義を行なっていく
会計学	授業評価、及びコメント部分におきまして、想像以上の評価を頂き有難く思っております。一方で、事前学習と事後学習に学生が費やした時間等は割合低い傾向にありますので、引き続き、授業内で事前学習と事後学習の意義、更には、具体的にどうすべきか(含む有益な関連資料の提供)を丁寧に指示するようしていきたいと考えます。
経営財務	<ul style="list-style-type: none"> ・高密度の科目であるが、基本的に授業そのものについては、一定レベルの評価を得たものとする。アンケートのコメントを見ても、基本的な事項に関する理解は相当程度進んだものと思われる。 ・従って、現在の方式をよりいっそうグレードアップするような形で講義を進めていきたいと考える。特に、科目の性質上、やや難解と思われる部分については、より丁寧な説明や事例の紹介を心がけるようにしたい。授業後の課題については自ら考える要素を増やすようにしていくように努めたい。

令和3年度前期 授業改善計画(事業構想)

科目名	授業改善計画
人的資源管理論	<p>本年度も講義内容、授業運営、評価方法について、基本的な変更は予定していない。これまでと同様に、最新の理論、研究、事象、事例、教育メソッドを積極的に導入することで、大学生に対して本来求められる知的好奇心を喚起して、修学意欲(モチベーション)を高水準に持続させ、学生自身が主体的な学習行動を選択することを目的に、これまで以上に真摯な授業実施・展開を志向する。授業成果を最大限にするために、授業を阻害する原因についての除去を徹底する。</p> <p>第1回授業において、「受講規程」「レポート提出規程」「参考文献引用規程」「参考文献表記規程」を周知徹底して、特に「評価方法」「評価基準」をより強く再確認させることで授業の説明責任を果たすとともに、学問に対する取り組みの成果として「学習メカニズム」構築と、3年次後期以降の「キャリア形成」における主体的行動に対して、十分な有効性を持てるように考慮して進める。</p> <p>本年度、「事前に、次回の授業内容について熟読して、疑問点を明確にして記述する。」「事後に、主要理論と主要概念を整理するとともに、疑問点が解消されたのかを確認する。」「についても受講生に説明したものの、これらは十分な水準とはいえないので、さらに意識して授業の最初の部分と最後の部分で、この2点を周知徹底する予定である。</p> <p>本授業は、大学における専門科目であることを正しく認識させて、不見識な態度、欠席、低クオリティレポート、日本語表現能力の欠落など、学問に対して真摯に取り組むことへの逆機能あるいは阻害については、一貫した対応の実行を継続する。「学問」に対して、「テキストを学ぶ」ではなく、「テキストで学ぶ」ことを説明し、事前学習の実行を指示したにもかかわらず、全く認識していない学生が一定数いることが確認されたので、そのような学生に対しては、本人だけでなく所属する研究室の教員にも情報提供して積極的に協力を仰ぐ。</p>
経営情報管理	<p>3年生前期ということもあり、ビジネス全般や企業経営についての知識がまだまだ不足しているため、「経営情報」面からの説明だけではなかなか理解が進まないため、より基本的な企業経営の事例などを引き合いに出しながら解説する。また、情報量が多いようなので、新たに執筆した教科書に準拠しながら、少しゆっくり進める。</p>
税務会計	<p>新カリで廃止となる科目となる。会計学の科目群では、最後に位置する応用科目である。よって、今後も踏まえた応用科目としての改善計画を記載する。</p> <p>今後もコロナ禍での運営の可能性はある。そのため、当面コロナ禍での対応について、シラバスでも想定した記載と初回授業での説明を行いたいと考えている。</p> <p>また、応用科目での位置付けとして、理想を描いてしまう傾向にあったため、無理のない目標設定・授業計画を心掛け、確実に達成できるよう配慮したい。</p>
CSR・経営倫理	<p>コロナ禍でのオムニバス授業の運営に対して、イレギュラーな状況に十分に対応できなかった。</p> <p>今後もコロナ禍が前提とするならば、イレギュラーな状況に対応できるよう、柔軟な想定を前提としたい。</p> <p>また、4年前期配当科目で、コロナ禍での就活時期に重なった学生も多く、授業での配慮のリクエストが数多く寄せられ、できる限り配慮したつもりである。しかし、上記のイレギュラーな状況と柔軟に対処したことで、授業計画通り進まなかった。</p> <p>新カリからは、科目名称も変更し、3年配当科目に戻すこととした。外部的な環境に左右されにくい授業環境を整えることで、そもそも問題が起きずらい前提の確保から、改善を図りたい。</p>
都市と文化	<p>建築士指定科目でありながら、全学類の共通科目となっており、すべての受講生の関心事に寄り添うことは難しかったのですが、WebClassを使用した毎回の小レポートのやり取りなどにおいて、可能な限りの応答を行ったことで、一定の評価を得たものと理解しています。</p> <p>「事前学習、授業、事後学習の流れがしっかりと掴めた」「配布資料が分かりやすかった」「説明が聞き取りやすかった」などの評価を得ました。これを受け、次年度も引き続きWebClassなどのLMSや映像メディアなどを活用した授業を行います。</p>
行政学	<p>毎回、前回の講義に関する小テストを実施します。授業は対話を中心に進めますので、毎回配布する事前学習資料について、必ず予習するようにしてください。</p>
社会的共通資本	<p>本講義は3年前期の専門科目として、基礎理論を理解するとともに、事例分析やディスカッションを踏まえて、実践的な知識を身につけていくことを目的としている。そのため、講義では、基礎理論を応用する様々な課題やワークを通じたアクティブラーニングを行っている。今後の課題としては、限られた講義時間の中で、効果的な意見交換やそこからの学びが得られるよう、アクティブラーニングの充実を図っていく必要があると考えている。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(事業構想)

科目名	授業改善計画
計量経済学	統計ソフトを利用し、実際に自分でデータに触ることによって、学びが深まったと考えている。丁寧な説明であったと評価してもらった一方、難しく感じた学生もいたため、さらにわかりやすさを重視した授業構成・資料としたい。
地域産業政策	<p>【この授業に関して、良かった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦様々な特別講師の方からのお話を聞いて、新しい知識や考え方が身につきました。また、レポートの発表の経験から、人前に立って話すことへの抵抗がなくなりました。 ◦課題レポートを共有する時間があった点。 <p>→4年次の配当科目ということもあり、これから社会に出て行く上で必要なリアリティも意識した授業内容にするため、第一線で活躍する外部講師を招聘した。 また、オンラインということもあり、対面授業よりもアクティブになるような運営方法を工夫し、ほぼ毎回の学生の発表、質疑応答を実施した。 今後とも内容の改善に取り組んでいきたい。</p> <p>【改善したほうがよい点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦ゲストの話が非常に退屈。ただ話しているだけで、公務員志望の学生でなければ苦痛の時間だった。 <p>→地域産業政策を企画立案する立場の行政職員を講師とした回については、学生の志向によっては興味が薄い場合もあったと考えるが、授業参加の積極性が得られるように工夫していきたい。</p> <p>【その他、意見、感想、要望など】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦感想の共有の日だけ学生数が著しく少ないように感じた。 ◦4年生で受講生も少なくなつてか、先生との距離が近くなった気がしました。講義が楽しかったので、自分から積極的に学びに行くことができました。 <p>→学生のレポートを共有し議論する回に学生数がやや少なくなったのは残念だが、意図的なものではなく、就職活動によるやむを得ないケースがほとんどだった。 新カリキュラムにおいては、配当年次を3年次にする予定。</p>
行政評価	<p>公共政策の現場と、その行政結果に関する評価をどのようにしていくのか、総務省行政管理局の外部講師や人事院による行政組織の人事評価、公共事業での費用対効果に関する評価等多岐にわたる現場からの説明を受けることのできる講義となった。 今後、シラバスや初回講義において、全体の流れをわかりやすく説明していくことが適当。</p>
地域福祉政策	<p>地域福祉政策は、少子高齢化が進む日本で避けては通れない課題です。今後も地方自治体の事例等から、皆さんにも地方自治体の取り組みなどを考えていただき、発表できる機会を増やしたいと思います。</p>
地域環境政策	<p>様々な外部講師による、地域環境政策の現場を知る機会となる講義であった。シラバスや講義初回で、講義の展開についてわかりやすく説明し、講義内容から得られる到達目標を整理して記載することが適当。</p>
社会起業論	<p>4年生科目であることから、より実践的な科目運営を心掛け、復興過程で活躍した東北のアントレプレナーを複数招聘し、ディスカッション形式の講義運営を心掛けた。 それによって、地域や社会の実情に即した ビジネスモデルの立案につながっていたことがアンケートから確認できた。 一方で、ビジネスモデル立案の高度化を求める意見も一通あり、ビジネスモデルの構築に資するフレーム等が必要と思われ、教材の改善を図りたい。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(事業構想)

科目名	授業改善計画
防災計画	<p>ゲスト講師による実際の話(復興と事業など)があることが良かったという意見が複数見られたので、次年度もそのような取り組みを行いたい。 また、グループワークによる作業があったことについても良かったとする意見が見られた一方、個人の取り組みの可視化のニーズもあるので、その点について工夫を行いたい。</p>
民法	<p>【良かった点についての自由記載】(抜粋) <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメがよくまとまっていてテスト勉強がしやすかった。 ・先生が優しく、質問したときも簡潔にまとめた資料を翌週の授業の際に渡してくださった。口調も本当に穏やかで、解説も丁寧。全学年におすすめの先生。 ・具体例を用いた、イメージしやすい講義だったので、とても良かったです。小テストが3回に分けられていたので、知識の整理がしやすかったです。 ⇒民法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。</p> <p>【改善したほうがよい点についての自由記載】(抜粋) <ul style="list-style-type: none"> ・レジュメを印刷する際、数行しかないのに1枚分印刷されることが多かった。できるだけ区切りよく収めてほしい。 ・当初小テスト4回の予定だったのに小テスト3回と期末テスト(持ち込み不可)に途中から変わったこと。シラバスを見て履修選択するので、予想外の期末テストの用意が大変だった。 ⇒レジュメのレイアウトには気を付けます。シラバスの変更については、コロナウイルス感染症の状況に鑑みて変更しました。どうかご了承下さい。 いずれにせよ、事前に変更の周知をしておくべきでした。</p>
公法	<p>【良かった点についての自由記載】(抜粋) <ul style="list-style-type: none"> ・説明が分かりやすく、解説も丁寧であった。重要事項についての喚起も適切に行われていた。 ・民法に比べて内容は難しかったが、先生の解説がわかりやすく、優しさを感じた。 ・度々小テストがあった点。継続して復習をすることができ、期末テストの前に焦ることがなかったから。 ⇒行政法および税法の初学者にとって解りやすい授業を心がけましたので、そのような評価を頂いて嬉しく思います。</p>
水資源利用学	<ul style="list-style-type: none"> ◦事前にかいてきたレポートを共有した点。各回のテーマに関連した事例や、それに対する他の人の考察を通して、理解を深められました。 ◦毎回の講義にて、自分で調べてきたことを発表するのが「大学の講義」をしているという実感があってよかった。他の人の視点で国際問題を見れるもよかった。 ◦学生が作成したレポートを基にした講義形式をとっていた点。 →反転学習の成果が現れていると考える。一方で、講義時間の制約上、準備した講義資料を解説する時間がとれないこともあった。今後、レクチャー部分のオンデマンド配信等を検討していきたい。
災害の科学(水)	<ul style="list-style-type: none"> ◦特別講師の型に来ていただき講義いただけました点。専門的な内容に多く触れることが出来、充実した授業内容に感じました。 ◦災害についてたくさんの方が学べて充実した授業だった。 ◦講義内容が分かりやすかったのと、自分の興味関心の幅が広がるような気がしたところが良かった。 ◦学生のコメントに対するレスポンスの時間が充実していた点。 →今後とも、学生の理解を深化させることに努めていきたい。事前・事後学習時間が不足していることについては、課題を増やすことを検討したい。 講義資料については、継続してブラッシュアップに努めていきたい。

令和3年度前期 授業改善計画(事業構想)

科目名	授業改善計画
災害の科学(土)	<p>(良かった点) 毎回の講義が分かりやすかった。また、ドローンや計測器を使用した実践的な講義内容も良かった。 屋外での活動や映像を使った授業、外部講師の授業もあり、講義内容が充実していた点。 毎回レジュメが分かりやすかったです。優しく丁寧に説明してくださりありがとうございました。</p> <p>(悪かった点) 特になし</p> <p>(その他) 北上川のビデオが印象に残りました。</p> <p>上記のコメントをもらった。社会科学系の受講生が多いので今後もより丁寧な説明、講義資料の改善をしていきたい。 また野外における環境計測などの充実を図り、理解の助けとしたい。</p>
地区・街区計画	<p>WebClassを使用した毎回の小レポートのやり取りなどにおいて、可能な限りの応答を行ったことが高い評価につながったものと理解しています。 都市計画分野で最も高度な専門性を伴う科目の1つでしたが、理解度も良好でした。 これを受け、次年度も引き続きWebClassなどのLMSや映像メディアなどを活用した授業を行います。</p>
構造力学 I	<p>最終の成績から見て、概ね学習すべき目標には到達していると思われるが、受講生の中には、高校で物理を履修していない場合があることから、理解レベルが様々であることが推測できる。限られた時間ではあるが、質問に答える時間を確保するなど、さらに個々の指導に力を入れていくことを心がけたい。</p>
建築計画	<ul style="list-style-type: none"> ・建築計画は、設計の基礎的知識や理論を学ぶためのものであり、普遍的な内容の比重が大きくなることを理解してもらう必要があることから、学習目標などを設定している。 ・さらに、そのことが新たな発想やアイデアの創出に不可欠であることを認識してもらえよう、講義中に繰り返したい。 ・今年度は、対面授業と、同時にTeamsでPowerPointを画面共有する形式で行った。従来は、プロジェクタでPowerPointを使用していたが、Teamsでは各自のPCで見ることができ、また、事後にも録画したものを確認できるというメリットを活かすことによって、事後学習に活用できるような課題の設定などを検討したい。
耐震設計法	<p>リモートでの講義、演習であったため、理解するのに時間がかかってしまったように思われるため、対面での授業により改善を図ってきたい。</p>
ファシリティマネジメント	<p>今年度は、対面授業と、同時にTeamsでPowerPointを画面共有する形式で行った。 従来は、プロジェクタでPowerPointを使用していたが、Teamsでは各自のPCで見ることができ、また、事後にも録画したものを確認できるというメリットを活かすことによって、事後学習に活用できるような課題の設定などを検討したい。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(事業構想)

科目名	授業改善計画
サスティナブルデザイン	WebClassを使用した毎回の小レポートのやり取りなどにおいて、可能な限りの応答を行ったことが高い評価につながったものと理解しています。都市計画分野で最も高度な専門性を伴う科目の1つでしたが、理解度も良好でした。これを受け、次年度も引き続きWebClassなどのLMSや映像メディアなどを活用した授業を行います。
インタフェースデザイン	台風接近の影響で第15回の授業を前日に急遽オンラインに変更して実施したが、受講生も変更に対して柔軟に対応してくれたため、大きな問題は生じずに全回を当初の計画どおりに終えることができた。授業アンケートでは改善の要望は寄せられていないことから、来年度も授業の構成は継続しつつ、より質の高い内容へとアップデートしていく。本科目で扱う各トピックに対してレポート等の課題を設定したが、授業外での学修時間がやや少ない結果であったため、課題内容の修正等を検討する。
コンピュータグラフィクス	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は対面授業として実施できたことにより、学生の理解度や関心等を把握しながらの授業を実施できた。 ・また昨年度に作成したオンライン授業コンテンツの併用により、授業の理解度も向上したものと判断する。 ・今後も理解度と難易度の適切なバランスを確保できるように進めていきたい。 ・例年、課題が多いとの学生意見が多い状況であったが、課題の調整を進めた結果、今年度は学生意見もなく、概ね適切な範囲に設定できたと考える。 ・今後も引き続き、適切な分量で効果的な課題の設定を行っていきたい。 ・また課題については昨年度に引き続き毎回のフィードバックを返し、学生のモチベーション維持を図るように努めた。今後もできるだけ学生との距離を縮めることができるよう配慮していきたい。
ウェブデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・3コマ連続×5週の構成を見直し 講義を実施する週数を増やし、継続的な学習を促進することを検討する。 ・到達目標の見直し ウェブデザインの知識の定着・制作技術習得の入り口となる授業となるように到達目標の見直しを行う。 ・授業計画の見直し 知識の定着を促進するために実技時間を増やす。(授業期間通期でのグループワークを検討。) ・slackの導入 継続的なコミュニケーションを生む試みを検討する。
感性情報デザイン演習Ⅱ	今年度の授業は面接授業として実施できたことにより、昨年度の授業評価アンケートで低迷していた到達度や理解度に関する項目も大きくポイントが改善しており、適切な改善が図られたと判断する。また昨年度は授業評価の中でも遠隔授業で質問しづらい等の問題が挙げられていたが、今年度のアンケートではほとんど意見がみられず、この点でも学生にとっては不満なく授業を受けられる環境であったと考える。来年度もより一層の理解度の向上を目指して、授業内容及び方法の改善に努めていきたい。
情報サービスデザインⅠ	今年度は、「情報サービスデザインⅠ」と「情報サービスデザインⅡ」の両方を一人で担当することになった。そのため昨年度までとは大きく内容を変更した。正直なところ、「Ⅰ」については、こんな易しすぎる内容では学生から苦情が出るのではないかと心配していた。しかし授業評価アンケートの自由記述では良かった点も改善したほうがよい点も空白で、拍子抜けであった。その他のところに「ありがとうございました」「大変でした」と2件の意見があったが、「便りのないのは良い便り」とポジティブに解釈したい。実は「Ⅰ」ではとにかく基礎を固め、それに基づいて「Ⅱ」ではかなり高度な応用まで踏み込むことを目論んでいる。現在「Ⅱ」も手探り状態で進めているところであるが、感触は悪くない。いずれにせよ「Ⅱ」でどこまで行けるかを見極めてから、来年度はどこをどのように修正するかを改めて考えたい。

令和3年度前期 授業改善計画(事業構想)

科目名	授業改善計画
フィジカルコンピューティング	全15回を概ね計画どおりに実施することができた。授業アンケートでは改善の要望は寄せられていないことから、来年度も授業の構成は継続しつつ、より質の高い内容へとアップデートしていく。授業に関して受講生からネガティブな意見は寄せられていないことから、来年度も授業の構成は継続しつつ、授業内容のブラッシュアップを図っていきたい。
エンタテインメントデザイン	本年度の講義は基本的に対面形式の授業方式とし、カードゲーム等を用いた体験型の演習を多く取り入れた授業を実施することができた。その結果、授業評価アンケートにおいても、グループワークが楽しかったとの自由意見が示されるとともに、教材や内容についても高い得点を得ることができており、当初予定通りの授業目標を概ね達成できたと判断する。来年度以降も引き続き対面授業を活用し、より効果的な授業展開を進めていきたい。
グラフィックデザイン	概ね良好な結果が得られたものと考えている。今後も課題について理解してもらえるよう説明を丁寧におこないたい。
デザインマネジメント	概ね良好な結果が得られたものと考えている。今後も課題について理解してもらえるよう説明を丁寧におこないたい。
プロジェクトマネジメント	4年次の選択科目であるので、わざわざこれを履修する学生は高いモチベーションを持っていた。また、単位は足りているとか、他学群履修の手続きが面倒という理由で、履修登録はしないが話を聞きたいという学生もいた。毎回面倒な課題を出したにもかかわらず、最後までついてきてくれた学生諸君に感謝する。学部時代には、3年次の「チームプロジェクト研究」の基礎教養として、2年次に「プロジェクト管理」を開講していた。学群制になって「チームプロジェクト研究」はカリキュラムからは消えてしまったが、3年までの演習科目でプロジェクトを行うこともある。4年になってこの講義科目で過去の演習を振り返ると様々な反省があるというかたちで学生諸君は受講してくれたようである。その観点でプロジェクト管理を議論することは私にとっても学びが多かった。来年度はその観点をさらに充実させるように内容を改善していきたい。
生活環境デザイン演習Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> ・「全体で行うプレゼンテーションと講評」では、対面とTeamsによる配信を同時に行い、全履修生が自身の手元で、他の学生の提案内容や指導内容などを視聴することができた。今後は、ICTを活用して発表や他者の指導の様子などを閲覧する機会を増やすことで、より多くの情報を得られるような工夫を行いたい。 ・2年次の生活環境デザイン演習Ⅰでは「設計製図の基礎的知識」の習得や、「設計案の作り方」、すなわち「問題」に対する「回答づくり」の方法を学ぶことに主眼が置かれているのに対して、この生活環境デザイン演習Ⅱは、「解くべき問題づくり」に主眼を置いており、そのプロセスと方法を学ぶことを学習目標として設定している。このことは、事業構想学におけるデザインを学ぶ上で重要な視点であることを理解した上で、課題に向き合ってもらえるよう、初回ガイダンスや各講義時に徹底したい。

令和3年度前期 授業改善計画(食産業)

科目名	授業改善計画
有機化学	<p>次年度は、対面授業を前提にして計画を立てている。次年度は教員による説明と、学生がグループ単位で演習に取り組む部分を組み合わせながら授業を展開し、当該科目が暗記中心のものではなく、自らの考えることが重要である旨、実感できるようにする。 受講学生の理解度を把握しながら、より丁寧な説明を心掛ける。 また、授業の中で、演習の時間帯を設ける。この中で、学生間での学び合いの機会を作り、より理解を深めるようにする。</p>
経済経営学基礎	<p>コロナウイルス感染症対策のため、特に通学のバスの関係で、ほとんどを遠隔授業で行うこととなった。 学生からのコメントでは1時間目が遠隔授業でも2時間目が対面授業だったことや、他の授業は対面なのにこの授業は遠隔授業であったなどの指摘があったが、それについては上記の事情があったことを改めてご理解頂きたい。 授業の内容について大きな問題点は無かったが、事前・事後学修の時間が全体の平均よりも低いことが示されているので、次年度の授業では、この点は改善・強化したい。また、川村の担当分の試験範囲の説明を早くしてほしいという要望には応えるようにしたい。</p>
科学基礎実験	<p>科学基礎実験は、宮城大学に入学してから初めて行われる実験実習であるため、なるだけ多くの分野に触れることと、基礎的な事項を身に着けることに重きを置いています。特にレポートは、学年が上がるごとに実験実習、ゼミ、卒論など提出する機会が増え、社会人になってからも求められる重要なスキルであることから、科学基礎実験で書き方をしっかり身に付けてほしいと考えています。 アンケートでは、「レポート作成について非常に参考になった」「実験レポートの書き方を学べた」という意見をいただいた一方、「課題が多くて大変だった」「レポートの提出期限と事前課題の提出日がそれぞれ異なっていて把握するのに混乱した。」などの意見も寄せられています。先生方もなるだけ課題が重複しないように連携を図るよう努めていますが、科学基礎実験は総勢13名の先生が担当しているため、どうしても把握できない場面も出てきます。その都度Teamsやポータルで履修者に連絡するよう心がけますので、履修生の皆さんもお知らせをこまめにチェックするなど協力をお願い致します。</p>
食材生産・加工実習 I	<p>検証： 1、各教員が「よかれ」と思って進めたことが曲解されている場合がある。 2、アレルギーの学生については事前に情報を得るようにしていたが、草地管理ではアレルギーとなるカモガヤやオオアワガエリを扱うので、実習に入る前に再確認すべきであった。 3、各分野の特徴により一律にしがたい点が伝わっていない場合がある。4、レポートについての改善を求める学生が多くみられた。</p> <p>改善点： 1、実習や課題の意義を丁寧に伝えるように努める。 2、草地管理に関しては、アレルギーとなる牧草を扱うことを実習前に説明し、アレルギーの学生には別メニューを考える。 3、実習は「体感」を重視する側面を明示し、天候その他の事情により、あるいは旬の話題や内容を盛り込んでいる点を明確化する。 4、レポートについては各担当教員が評価基準を明確化する。</p>
応用情報処理(食産)	<p>対面での演習を中心とした内容であり、小グループによる発表会も実施した。概ね好評であったので、今後もこのような機会を設けて実施していきたい。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(食産業)

科目名	授業改善計画
応用統計学(フード)	<p>授業計画に沿って授業を行って、結果的には全員が単位を取得できたので、大きな問題点は無かったと考えている。事前・事後学修の時間が少ないことについては、練習問題の数や内容について改善を行っていく。</p> <p>担当の教員によって授業の内容が変わることについての指摘があったが、これは内容や分野によって統計の使い方も違ってくるので、ある程度はやむを得ない面があるが、できるだけ調整するようにしたい。</p> <p>来年度は担当教員の組み換えがある予定なので、今年度の状況について理解した上で実施していく。</p> <p>また、授業ではExcelを使うのに試験が筆記試験であることについてのコメントがあったが、これは授業中にも話したように、ソフトを使うことと理論を理解することの両方をできるようにしてほしいという授業のねらいを反映したものであり、試験は無理のないレベルで実施した。ただし、担当教員も今年度のやり方がベストだとは思っていないので、新たな方法も考えたい。</p>
キャリアデザインⅡ(食産)	<p>”キャリア”を考える際に、”自己選択権”と”自己決定権”は大切です。多種多様な情報を用いて、自らの職業を選択する際に論理的かつ効率的な手順として、”キャリア・プランニング・プロセス”があります。そのプロセスの中で、低学年である今は、”データベース”を構築する時期として、その分野の第一線で活躍されているファイナンシャルプランナーや男女参画財団、卒業生に外部講師として登壇頂きました。社会理解を深める事ができ、将来像をイメージしやすくなった方も多かったと思われます。</p> <p>また、「インターンシップⅠ」科目と差別化するために、キャリアの理論を用いて”働く・仕事”にも焦点を当てました。多方面から、”働く・仕事”を紐解く事で、それらを”自分事”として考える機会を多く提示できたと思います。今後も、”データベース”の構築ができ、職業観が深められるような授業展開を行います。</p> <p>なお、本来キャリア科目は、グループワークを通し、自分の考えを他者に伝え、他者の考えを聞く事で、”気づき”が生まれ、自身の価値観を深める事ができる科目です。しかし、現状、グループワークを実施するにもある程度の制約があります。今後、対面式での開講メリットを活かし、”気づき”を得られるようなワークを検討していきます。</p> <p>そして、インターンシップ参加率増加や就職活動の早期化に対応するため、就職活動のノウハウも低学年より伝えていきたいです。</p>
インターンシップⅠ(食産)	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、数名のチーム単位で約30社の地元企業を訪問し「企業の魅力・人の魅力」をテーマとするパワーポイントによるプレゼンスライドを作成していましたが、今年度はコロナ感染防止のため中止とし、代替案として地元の県内企業12社と協力体制を確立し、講義内で企業と学生をオンライン上でつなぎ、オンライン企業インタビューを実施しました。概ね好評でしたが、対面講義内でTeamsオンラインを使用した講義は不要だったという意見も見られましたので、今後注意していきます。 ・授業外の事前・事後学修の時間が平均より少ないので、企業研究の予習や復習など課題に対する考察時間を1.5時間程度/回になるように考慮していきます。 ・その他、学生にとって、よりよい講義になるように改善していきます。
食料・農業・農村政策	<p>授業ではFormsにあった質問等を次回の講義で説明をおこなってきた。これは、政策の基礎について理解できないと、ただ上っ面で言葉だけで政策を理解することになるからである。そのために十分な時間を掛けて説明していたが、今回のアンケートをみると、不要だとする意見が多数寄せられている。昨年度も同様の意見が寄せられているが、十分に消化できていない学生から質問に対しては、学習効果の観点から回答をする必要があっても時間をとらざるをえない。おそらくは理解できている学生は理解できているのであろうし、そうした理解差が大きいのだろうと考えられる。改善に向けての努力はするが、進捗が遅くても学修に十分な説明しているの、十分に理解できている学生は、待ってあげるか、もしくは、先に進みたいようならば、講義の他に授業中に参考書を指示しているのでそうした本で自ら勉強するよう努力してみてもどうだろうか。</p>
キャリア開発Ⅱ(食産)	<p>「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」では、自己理解、社会環境理解。「キャリア開発Ⅰ」では、職業選択を意識した業界・企業研究などを伝えてきました。この「キャリア開発Ⅱ」では、これまでの学習、知識を活用し、インターンシップ選考化や就職活動の早期化、選考のオンライン化に対応すべく、履歴書の書き方、適職診断、グループディスカッション演習、オンライン自己紹介発表会を実施しました。また、企業との座談会では、企業が求める人物像や企業の視点を理解する事ができたと思います。</p> <p>今後も、「キャリア系科目」と「インターンシップ関係科目」で連携をとり、学生が自身の進路や、将来のキャリア形成に対し、不安にならず落ち着いて”自己選択””自己決定”できるような知識とスキルを身に付けられるような授業展開を目指します。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(食産業)

科目名	授業改善計画
インターンシップⅡ(食産)	<ul style="list-style-type: none"> ・例年、夏休み期間中に「①各自の専門性を活かせる研修先の企業・機関が主催するインターンシップに応募し研修を行う。 また、②学群教員が提供する研修先、研修プログラムで研修を行う。」という2パターンのインターンシップを提案していましたが、今年度はコロナ感染防止により②を中止とし①のみとし、自ら公募型インターンシップに申込をすることを単位条件としました。 ・授業外の事前・事後学修の時間が平均より少ないので、企業研究の予習や復習など課題に対する考察時間を1.5時間程度/回になるように考慮していきます。 ・その他、学生にとって、よりよい講義になるように改善していきます。
フードコミュニケーション	<p>授業への主体的な参加を促進するため、匿名で意見を共有画面に投稿できるアプリを授業で使用し、1回の授業で100以上のコメントが出る状況であり、学生からも他の受講者の異なる意見を知ることができて有益とのコメントを多数得ている。一方、当該アプリへの参加学生は受講者の1/3程度に留まっており、より多くの学生が関心を持ち、主体的に参加できるような設問設定など更なる工夫を行いたい。</p>
食材生産概論	<p>この授業のよかった点として、「レジュメに記載された以外の豆知識等もあり話が面白い」「(動植物の)分野別に学べる」「授業内容をまとめる課題が試験に役立った」「資料が充実して勉強しやすい」などが挙げられており、引き続き、興味深く学べる授業を工夫していきたいと思います。一方、課題が多いという声がありました。</p> <p>1. 事後レポート 履修ガイドにあるように、授業科目「1単位」は、「教室内における授業時間」と「事前・事後学修時間」とを併せて45時間の学修時間により構成されることを基準としているので、この授業で設定されている事後学修は妥当なものと考えています。</p>
生物生産環境学	<p>4. 授業改善計画 (学内公開する予定です。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義のスタイル 対面/オンラインどちらでも対応できるよう改善をすすめる。コロナ禍を考慮し、状況に応じて柔軟にオンデマンド講義用のコンテンツの必要性も検討する。 ・学習環境の確認 パソコンや通信環境などの整備の差が個々で大きいため、オンライン講義実施の場合は、事前に受講予定者には学習環境の調査し、対応する。 ・講義内容の周知 当講義は、基礎から応用(具体例・先進事例)が含まれるため、ガイダンス時(第一回)に授業構成とそれぞれの関連性について明確に示す。 ・講義内容 先進事例の理解には、事前に現在の情報通信技術の理解も必要なため、基礎的な情報通信関連の内容を講義に追加する(新カリキュラムでは二年時に本講義理解のための講義が追加されている)。 ・事前事後学習に関して 他の講義と比較しても事前事後学習時間が短かったため、事前課題を作成、事後課題の難易度を上げるなどを行う。
植物病理学	<p>微生物学の部分から行政的な内容まで学修内容は多岐にわたるため、用語など覚えることが多く、指定した教科書をベースに、要点をわかりやすくまとめたプレゼン資料を用いて説明する。病気の症状などをイメージしやすいように、写真(できれば植物の“現物”)をさらに多く提示するように努める。</p> <p>今年度と同様に毎回の確認テストを実施し、随時理解度を確認する。</p> <p>履修の仕上げとなる「病害診断プレゼンテーション」を充実させるため、今年度と同程度の検体数と発表時間、特に質疑応答の時間を十分に確保する。</p> <p>また同時期開講科目である植物性食材生産実験実習Ⅰと連動した講義内容(項目順)となるように調整し、講義と実習の同時学修により、植物病理学の理解を深める。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(食産業)

科目名	授業改善計画
植物遺伝育種学	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。以下の皆さんからのコメントを転記します。</p> <p>【良かった点】 ・分かりやすく、最高でした！！ ・定期的に小テストを行ってもらえる。</p> <p>【改善した方がよい点】 (コメントはありませんでした)</p> <p>【その他】 (コメントはありませんでした)</p> <p>(改善点) →引き続き、わかりやすい授業になるように努めます。</p>
植物性食材生産学Ⅰ(食用作物)	<p>本授業では食用作物についてより関心を持ってもらうため、できるだけ実物を見たり触れたりできるように教材を準備していましたが、コロナで遠隔授業を体験した後の対面授業であることもあり、他人が触れた教材を触るのに少し抵抗がある学生も見られた。感染症対策をしながら引き続き実物を見たり触れたりできるようにしていきます。今年度は授業に対する反応がほとんど見られなかったことから、Forms等を入れながら学びやすい環境を整えていきたいと思います。</p>
植物性食材生産学Ⅱ(露地園芸)	<p>本講義の後半5回は同時期に開講されている「施設園芸学」と内容を並行させながら行っている。これは、果樹園芸学の部分を「露地園芸学」と「施設園芸学」に分けて開講しているためである。アンケートの感想に「後半の施設園芸学との兼ね合いが難しかった。話がとっ散らかり、理解しづらかった部分が多い。」との意見があった。これは、「露地園芸学」と「施設園芸学」の受講者が必ずしも同じとは限らないため、続けて行うことができないことが混乱を来していると考えられる。なるたけスムーズな理解を得られるよう、次年度は講義ごとの区切りを明確にしたいと考える。</p>
植物性食材生産学Ⅲ(施設園芸)	<p>本講義の後半5回は同時期に開講されている「露地園芸学」と内容を並行させながら行っている。これは、果樹園芸学の部分を「露地園芸学」と「施設園芸学」に分けて開講しているためである。アンケートの感想に「後半の露地園芸学とごちゃ混ぜになってしまった。」との意見があった。これは、「露地園芸学」と「施設園芸学」の受講者が必ずしも同じとは限らないため、内容を連続させることはできず、別々の項目を設けて講義しているにも関わらず、内容が重複する部分が多いためと考える。しかし園芸学に限らず、学問は分野は違えども共通する部分は多くあり、内容が派生していくこともしばしばある。これらを体系立てて理解できるかどうか、本当の意味での理解につながることから、次年度は、内容の重複については自分で確認を行い整理して考えられるよう、指導を心がけたい。</p>
動物遺伝育種学	<p>今後できるだけ分かり易く、数式ベースではなく、図や対話型を通じて理解を深めてもらうように努める。</p>
動物性食材生産学Ⅱ(肉)	<p>検証: 昨年は、遠隔であったことからか、改善してほしい点への記載は全くなかった。今年は対面であったが、「授業の目的があまりわからなかった」という意見が1つあったのみであった。しかし、評価は昨年より低くなり、全学平均より若干少く推移しており、授業の内容を再検討する必要があると感じた。</p> <p>改善点: 先にも書いたように、今回は対面で行えたにもかかわらず、評価点は昨年より悪くかつ全学平均より低かった。したがって、来年度は授業の内容を再確認し、構成を若干変えて授業に臨みたい。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(食産業)

科目名	授業改善計画
生物生産環境学実験	<p>教員側の印象とアンケート結果を比較すると、教員側が求めている成果に到達しているものの、学生側の満足度が低い傾向がみられました。実施内容についての期待(到達目標)と実際に実施した内容について乖離を感じているものと推測されます。次年度についてはより具体的に記述し、到達感を感じられる形を取りたいと考えています。</p>
植物性食材生産実験実習Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度も引き続きコロナ感染症拡大防止のため、2つの実験室に分かれて実施しました。今後も同様の措置が必要になると考えられることから、teams等を活用して実験室間の指導差がないように務めます。 ・実習の意義をより理解しやすくするため、事前学修課題の強化を図ります。
動物性食材生産実験実習Ⅰ	<p>「教員の手厚いサポートがあった」というコメントがあり、またレポート執筆のための自学自習時間の確保も理想的であったと推察され、今後大きな改善は予定していないが、実習に用いる物品の検討は必要であると考えられた。</p>
植物生産基礎実験Ⅱ	<p>授業評価アンケート、ありがとうございます。今後も充実した内容になるようプログラムを作ります。教材と説明の適切さ、難易・進度の適切性、授業マナー遵守への配慮、授業計画のわかりやすさ、の平均値が他の授業に比べて低くなりました。実習内容と計画を十分に説明するとともに、履修生が主体的に実験ができるように進行状況を調整しながら実習を行います。</p> <p>(日渡担当分) 実験の待ち時間を利用して、実験の原理や今後の実験の予定などを詳細に解説します。履修生が実験内容と方法を把握してから、操作に入るようにします。</p> <p>(岩井担当分) 教材と説明の適切さ、難易・進度の適切性、授業計画のわかりやすさの平均が低くなった原因として、学生の分子生物学的な基礎知識の不足が考えられる。講義科目の復習的な内容も加えて今後実習を進めて行きます。</p> <p>(木村担当分) 以前行っている実験からの積み上げが十分にできていないため、実験方法の理解が十分でない場合が見られる。事前学習の教材を充実させるなどして、改善を図るようにします。</p>
動物生産基礎実験Ⅱ	<p>感染対策をしっかり行いながら、十分な教育成果をあげられるよう工夫する。実験内容によっては、土日の実験(観察程度)が含まれることをシラバスにも記述する。</p>
分子生物学	<p>わかったつもりで終わりにせず、確実に説明できるところまで自主学習をしてもらいたい。毎回の自主学習を十分行わないと最終的に目標に到達できない場合が多いということを、講義の初めに強調したが、来年度もよく説明し、かつ理解度をできるだけこまめに確認するようになりたい。</p>
栄養科学	<p>毎回の「振り返り」で食生活や健康に関する多くの興味深い質問・意見があり、それらに対する回答を次の講義資料に掲載し、一部解説することで充実した内容になったと思われる。栄養科学は、授業内容が非常に多いため、スライド・資料の情報量も多くなりがちなので、より分かりやすくするよう常に改善を心がけたい。また、要点は授業中に強調しているが、さらに理解しやすくなるよう工夫したい。</p>
企業倫理	<p>授業で扱うピックスと具体的事例を、普遍的な事例とともに各学生が直面する状況に合わせてアップデートしたわかりやすい形で講義することに務める。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(食産業)

科目名	授業改善計画
食感性科学	<p>学生評価によると、ほとんどの項目で平均点を上回っていた。特に、「教材と説明の適切さ」・「知識、技術等役立、関心」・「難易・進度の適切性」・「目標到達できる内容」については、どれも全授業の平均値より高い。よってこれらの項目については、次年度も同様の内容を行う予定である。一方で、「授業外の学習時間」に関しては、全授業の平均値より1時間程度低かった。</p> <p>次年度は、各回で課題を出すまたは中間レポートを課す等して、授業時間外の学習時間を増やしていきたい。また、「授業計画のわかりやすさ」・「授業の要点・内容の整理」については、平均をやや上回ってはいるものの、高い値ではなかった。</p> <p>来年度は、初回授業に授業計画を詳細に説明したり、講義の終わりに授業の要点・内容を整理する等して、改善していきたい。</p> <p>自由記述をみると、「個人的に興味がある分野だったので、とても楽しい学ぶことができた。また、前回の授業内容の感想を振り返るのも面白かったし、あまり時間をかけず授業に入っていくのが良かった。」といったコメントがあった。改善した方がよい点については、コメントは得られなかった。こうした学生の意見を参考に、より充実した授業を展開していきたい。</p>
水資源利用学(食産)	<ul style="list-style-type: none"> ・水資源に関して興味を持つことが出来る授業形態だった 発表の練習になった ・授業形態も含め、各講義の内容が興味や関心を広められるようなものばかりで、本当に聞いていてもっと水の利用について学びたいと思えた。特に予習の方法がとても良かった。 ・もっと水の利用について講義を学べるようにしてほしい。 <p>→→反転学習の成果が現れていると考える。</p> <p>一方で、講義時間の制約上、準備した講義資料を解説する時間がとれないこともあった。今後、レクチャー部分のオンデマンド配信等を検討していきたい。</p>
水棲動物学	<p>本講義は水産専門科目の最初の講義であり、基礎的な知識を中心に行っており、授業で取り扱う範囲も多く時間配分をもう少し改善していくとともに、アンケートにあるように、公務員への志願者も近年多くなっており、幅広く公務員試験対策にも繋がるような授業へ工夫していきたい。</p> <p>一方で、授業外の学習時間が大変少ないため、定期的な小テストを実施するなどし、時間外学習を促すように対策を行っていきたい。</p>
水棲植物学	<p>寝ている学生を起こしたりや内職(他講義のレポート作成、スマホによる動画視聴やチャットなどのやり取り)をできなくするような厳しい接し方が必要かどうか悩んでいるところです。</p> <p>他の講義ではこんな感じでも単位がもらえることがあった可能性があり、もしそうだとしたら学生が単位取得を簡単に考えるようになり、真剣に勉強する雰囲気が無くなってきているのかもしれない。私としては選択科目なので興味がないなら受講をやめれば良いと思っているのですが、単位は欲しいようです。というか取れると思ってしまっています。そのため、大学あるいは学群全体で講義の在り方を考える必要があると感じています。ということで、現時点では改善計画はなく、もう少し様子を見て宮城大学の学生を理解したいと思っています。</p>
水産増殖学	<p>対象が4年生ということがあって例年受講生が少ない状況です。</p> <p>これは4年生ともなれば卒業単位はほぼ取得しているので、 unnecessaryな講義は受けないという気持ちが反映にされた結果と感じています。</p> <p>新カリでは学年が下がるため多様な学生の受講が期待できるので、シラバスは講義内容を一新できるよう工夫して作成しています。</p> <p>ただ、旧カリの間は現状が続くと思うので、状況に応じた講義を心がけたいと思っています。</p>
食品衛生学	<p>次年度は、対面授業を前提に授業計画を立てている。</p> <p>当該科目は、食品の安全性に関わる技術的な事柄について学ぶ内容である。このため、食中毒菌の名称や生育条件など、基本的な事項についてはある程度暗記が必要である。</p> <p>例年、基本的な知識の定着を図るため、ミニテストを実施している。このことが事前・事後の学習を促すことにつながっている。</p> <p>次年度においても、例年の通り毎回の授業の中でミニテストを実施しながら知識の定着を図る。また、最新を話題などを調査するためグループワークによる調査プレゼンテーションも実施する。</p> <p>ただし、単なる暗記に頼って内容を把握できていない受講生も散見されるため、内容についてもしっかり理解できるように促したい。</p>
食料経済論	<p>授業の内容は、今年度とほぼ同じ構成で行う予定です。事前・事後学修が少ないという問題点がありますので、課題等を出すように改善します。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(食産業)

科目名	授業改善計画
食品流通・情報論	<p>学生側が授業で主体的・自発的に参加できるように毎回ディスカッション課題について議論させ、プレゼンテーションもさせることにより、多方面で学生の能力を引き出した。今後さらなる授業運営の仕方を工夫していく。</p>
食品企業経営戦略論	<p>講義系科目は、予習として、シラバスを見てテキストを読み事前に自分なりのまとめを作り、不明な点を講義で確認するという受講姿勢が必要です。そうでないとノートを取ることに忙しく、話を聞く余裕が出来ません。対策としては、</p> <p>① 必ず、毎週、事前にしっかりテキストを読み、少しでも良いので自分でまとめ、余裕を持って講義を聞か、 ② 何も準備せずにそのまま授業に出席して、冗談や例え話を含めて必死でノートを取るか、</p> <p>いずれかの姿勢を明確にした上で履修して下さい。当然ながら②の場合の理解度はかなり下がります。4～7月の15回という期間限定ですので覚悟を決めたら頑張ってみましょう。専門課程の選択科目の講義ですのでレジュメは配布しません。また、講義中の携帯によるスライド撮影も禁止です。教員がまとめたレジュメを見て要領よく覚える受験勉強タイプの勉強はそろそろ卒業し、しっかりと専門書を4か月かけて読みながら内容を理解するということはどういうことかを、この機会に学んで頂ければと思います。皆さん達の先輩の多くは、しっかりとこなしていきました。皆さん達もできると信じています。</p>
フードシステム調査演習	<p>この授業は、演習として学生自身が手を動かして実践し、教員はそれをサポートするものである。対面で実施できて作根よりも効果があったと考えられる。学生それぞれの進行具合を見計らいながら、さらに躓いているところを丁寧に対応していくことで、全体を底上げしつつ、進行を図っていくことで学習の到達目標を達成するという意味では目標どおりだったといえる。このことは成績評価からもうかがえるが、学生からの回答については一様に大幅に低い。学生の自己評価が低いということなのか、原因については明確なコメントもなく、評価の幅も大きくよくわからないが、課外学習の時間が短く次年度は適切な時間を確保するよう課題の出し方を工夫する。</p>
フードサービス産業論演習	<p>アンケートを見ると大部分の項目で平均を上回っている。ただ、授業外の学習時間だけが下回っている。今回は実習をするのも新型コロナウイルスの関係で外食が大きな影響をうけており、また、中間テストなどの実施するなど考えられる。今後は、学生同士のディスカッションを設定するなどの工夫をすることで事前準備、事後の反省の時間を作れるような形にしたい。</p>
フードシステム解析演習	<p>計量経済学、オペレーションリサーチ、多変量解析等は、難しく感じるかもしれませんが、実際にデータを手にとって、いろいろと分析してみると楽しいものです。理論と実践をいったり来たりしながら、フードシステムに関わることに興味を広げてほしいと思います。分析手法の理論に加えて、実社会でどのようにデータが使われているか分かるように演習の中身を改善していきたいと思います。</p>
食品衛生学実験	<p>本実験の内容に関しては、今年度参加した学生の積極的な参加と十分な学習により充実したものとなった。参加した学生には、今後の学習に関しても本実験科目と同様に積極的な取り組みを続けてもらいたい。実験の組み立てとしては、食品製造の現場で実施されている内容をコンパクトにまとめたものとなっており、この内容を十分に理解した上で、実験の望んだのであれば、実際の現場においても必ず役に立つ内容となっている。次年度以降も基本的にこの内容で実験を進める。ただし、一部の行程で、ガラス器具が足りない、損傷が激しく使用に耐えない、などの不都合が発生したので、この部分に関しては、事前に十分に整備することとする。また、マニュアル類に関しても訂正箇所などがあったため、新たに更新する。</p>

令和3年度前期 授業改善計画(食産業)

科目名	授業改善計画
食品流通・情報論	到達目標やシラバスは概ね問題ないと考えている。 目標到達のため、定着のための学習時間を増やす必要があると考えている。 事前、事後の学習、準備が必要となる講義の実施(開始時の問いかけや討論)、事後の定着の時間を設けたい。
ローカルフードシステム論	県庁職員の講義が好評だったようだ。今後もこのような機会を設けて実施していきたい。
ライフステージ栄養学	本年度の授業は第1回目を除き対面での実施となった。毎回、出席と確認と共に質問や感想を記入して次の講義に活かすよう心掛けた。 授業アンケート結果によると、授業の内容、説明、難易度、目標達成度など平均を上回っていたことは良かったと感じています。一方、授業外の学習時間は、就職活動や卒業研究も重なったことから低調であったことは残念です。 次年度は、授業外学習が進められるよう小テストなどの実施して、よりきめ細やかな講義として行きたいと考えております。
食産業・政策史	本講義は就活期間と全く重なっているため、出席できている学生も連続して受講できる状況ではないのが残念である。ただし少人数講義なので、質疑など対面でのアクティブ・ラーニングを積極的にとり入れた授業の進行ができた。 食の歴史の基礎的な部分と歴史的な思考に関する部分について、よく伝えられたと考えている。 対面の講義だと、進行に配慮しながら実施するため、昨年の遠隔授業ではできていた戦後史への言及が十分にできなかった。 改善点としては、学生の状況を見つ話すのでなかなか出来ていないが、講義の主題を1回完結にするなど工夫を考えたい。 大学で歴史を学ぶことの意義は、出来事の羅列や物語にあるのではなく、人と社会を動かす「力」を理解することなので、その大きな「力」が理解できるようになることを目標としている。 レポート課題は、ネットなどを調べれば一つのことしか出てこないが、実はそれにはいくつもの考え方があって、自分で考えなければ書けないものを出题することとしている。
食品物理化学	受験時に理系科目を選択しない学生も履修することから、物理と化学の基本的な説明を重視し、わかりやすい説明や表現(スライド)に努める。